北海道
その先の、道へ。北海道

２０１６年度

向陽ヶ丘病院年報

北海道立向陽ヶ丘病院

はじめに

平成 29 年 4 月 1 日より地方公営企業法が全適応となり今年度は始まりました。新任の院長として、前任の佐々木信一先生から地域精神科医療に貢献できる病院づくりを託されましたが、病院事業管理者や諸先輩方の指導を受けつつ、職員の方々や地域の方々に協力を得ながら病院運営の何たるかを学びつつなんとか歩んだ 1 年でした。

着任早々、4 月末には病棟患者のインフルエンザ感染アウトブレイクがあり、総看護師長、副総看護師長をはじめとする感染対策委員会の尽力なしには、事態の収拾をあれだけ迅速に行う事は出来なかったと思います。

9 月 16 日には、佐々木先生を実行委員長とする第 61 回精神保健北海道大会がエコーセンター2000 で開催されました。私は、準備段階の途中から実行副委員長として参加するかたちとなりましたが、職員の方々、実行委員の皆様、網走保健所、斜網地域の市町の職員の方々が強力にバックアップしてくださり、なんとか大会を終えることができました。

10 月には、厚生局の施設基準に対する適時調査の通知を受け、施設基準に適していない部分の御指摘をいただきました。施設の一部改修やデイケア報酬の一部返還を伴う厳しい御指摘でしたが、病院局との調整や、煩雑な返還作業を主に事務方に着実にこなしていただいたおかげで、迅速かつ適切な対応が出来ました。

オホーツク三次医療圏の保健所管内人口は、網走保健所管内の人口 6 万 8 千、北見保健所管内１５万６千、紋別保健所管内７万１千ですが、紋別では精神科救急医療システムに参加する医療機関がなく、北見では１病院しか参加していないため、２つの病院で交代に当番を担当せざるを得ないという、明らかに当番病院には負担の大きいシステムです。さらには、救急医療システムに非協力的な病院もあり、救急医療システムそのものが崩壊しかねない状態となっています。非協力的な病院には担当保健所を介して改善を求めていますが、すぐに改善することは難しそうです。

病床運営では、認知症の周辺症状に加えて身体機能の低下した方の入院がますます増加し、老人精神病棟はケア度の高い高齢者で常に満床である一方で、開放病棟や閉鎖病棟は徐々に空床が目立つようになってきています。高齢化および過疎化により今後もこの傾向が変わることは考えがたく、老人精神病棟の運営方法の変更や、介護者に休んで頂くための期間を限定したレスパイト入院、神経症圏の方の短期ストレスケア入院なども今後検討していく必要があると考えています。

平成３０年２月３日

病院長　藤井　泰

理念、基本方針等

理　　念

「こころの和と輪」を大切に、
患者さま、ご家族、地域の皆さまと手を携え、信頼と満足の医療を目指します。

基本方針

・オホーツク圏における精神科医療の基幹病院としての役割を果たします。
・患者さまの権利を尊重し、安全で信頼される医療を提供します。
・人権を尊重し、地域との連携を深め、患者さまの社会参加を応援します。
・医の倫理を踏まえ、より質の高い医療を目指して職員の資質の向上に努めます。
・公的責務を自覚し、透明かつ適正な病院経営に努めます。

患者さまの権利と義務

「患者さまの権利」

向陽ヶ丘病院は「患者の権利宣言(リスボン宣言)」を尊重します。
・人権や価値観を尊重され、適正な医療を公平に受けることができます。
・病気や治療の内容について、十分な説明を受けることができます。
・十分な説明に基づき、自らの意志で医療内容を選択することができます。
・医療上の個人情報や秘密は守られます。
・あなたの診療情報の開示を求めることができます。

「患者さまの義務」

・ご自身の健康に関する情報を知らせていただきます。
・病気や治療の内容について、十分理解するように努力していただきます。
・病院のルールを守り、意欲を持って医療に参加していただきます。
・他の患者さまの医療を妨害する行為を慎んでいただきます。
・医療費を支払う義務があります。

臨床倫理綱領

1　病める人々とその家族・関係者の権利を尊重し、信頼関係に基づいた医療を行います。
2　十分な説明と同意に基づく、患者さま本意の医療を行います。
3　隔離などの行動制限が必要な場合には､それを最小限にとどめるよう努力します。
4　医療情報、記録を整備し、決められた基準に従い管理します。これらの情報に関しては、患者さま以外の第三者に対しては、正当な理由なく洩らしません。
5　病院医療に関わるあらゆる安全管理に最大限の努力をします。

職員の倫理

1　向陽ヶ丘病院の理念、基本方針を自己の行動の規範とします。
2　公務員倫理と医の倫理を踏まえ、患者さまの権利を尊重し、希望のもてる医療を実践します。
3　仕事に誇りを持ち、すべての患者さまに公平、平等な医療を行います。
4　より質の高い医療を提供するため、自己研鑽に努めます。
5　患者さまや地域からの信頼を得るよう努めます。

暴力対策指針

この指針は、北海道立向陽ケ丘病院職員（以下「職員」という。）が暴力の基本を踏まえ、包括的かつ組織的に暴力の予防、対応、再発防止に取り組む方法を指針として示すことによって、職員を暴力から保護し、職員の安全と健康を確保するとともに快適な職場をつくり､もって質の高い安全な医療サービスを提供することを目的とする。

目　　次

はじめに

理念、基本方針等

第１　病院の概要 …… 1
1　性格と機能 …… 1
2　主な事業 …… 1
3　施設概況 …… 1
4　診療概要 …… 1
5　組織機構 …… 2
6　職員数 …… 3
7　院内各種会議・委員会等の設置状況 …… 4
8　会議・委員会等組織図 …… 5

第２　業務概要 …… 6
1　医局 …… 6
2　看護 …… 7
3　薬局 …… １１
4　栄養指導部門 …… １２
5　放射線科 …… １３
6　臨床検査科 …… １４
7　地域連携室 地域連携科 …… １５
8　地域連携室 リハビリテーション科（デイケア部門） …… １６
9　地域連携室 リハビリテーション科（作業療法部門） …… １７
10　地域連携室 臨床心理部門 …… １８
11　認知症疾患医療センター …… １９

第３　診療概況 …… ２０
1　年度別、病棟別入院患者動態 …… ２０
2　新入院患者の病名別・形態別患者数及び割合 …… ２２
3　新入院患者の病名別・年齢構成 …… ２８
4　新入院患者の年齢階層別人数及び割合の年次推移 …… ３４
5　入院患者の在院期間別人数及び割合 …… ３５
6　退院患者の退院先別入院期間別人数及び割合 …… ３６
7　入院患者の居住地域別人数及び割合 …… ３８
8　入院患者の経路別人数及び割合 …… ３９
9　外来患者数の推移 …… ４０
10　初診外来患者の病名別分類 …… ４２
11　外来患者の居住地域別人数及び割合 …… ４３
12　診療時間以外の診療件数内訳 …… ４４
13-1 精神科救急医療システム実績 …… ４４
13-2 救急車による患者搬入件数の年次推移 …… ４４

第４　経営概況 …… ４５
１　決算状況 …… ４５
２　経営分析調 …… ４６
３　診療行為別件数 …… ４７
４　病床100床当たり職員数 …… ４８
５　医薬材料使用効率調 …… ４９
６　給食収益に対する材料費調 …… ４９

第５　地域支援活動 …… ５０
１　診療支援 …… ５０
２　地域の保健、予防活動 …… ５０
３　講演 …… ５１
４　自助グループへの支援 …… ５１
５　グループホームと地域活動支援センターの支援 …… ５１
６　網走保健所、市町村等との連携 …… ５１

第６　研修、教育・実習 …… ５３
１　院内研修開催状況 …… ５３
２　院外研修会等参加状況 …… ５３
３　教育、実習の受入 …… ５４

第７　医療事故等の状況 …… ５５
１　医療事故等の公表基準 …… ５５
２　医療事故等の発生状況 …… ５６

第８　ご意見の概要 …… ５７

第９　資料（網走の精神保健・医療） …… ５８
１　オホーツク総合振興局管内の人口と面積 …… ５８
２　精神科医療機関の状況 …… ５８
３　精神保健福祉社会資源 …… ５８

第１　病院の概要

１　性格と機能

・道東北(北網)地域の精神医療の専門病院として、地域医療の公的使命を担っています。
・精神科デイケアを設置し、社会復帰のための機能を担っています。
・訪問看護を実施しています。
・精神科救急医療体制(オホーツクブロック)に参加しています。
・児童発達外来サテライト診療を実施しています。
・認知症疾患医療センターを設置し、認知症専門医療を実施しています。

２　主な事業

(1)　入院及び外来患者に対する診療
　道立病院として、精神障がい者に対する診療を実施
(2)　社会復帰活動の実施
　訪問看護活動、精神科デイケア、精神科ソーシャルワーク及び入院リハビリテーションを実施
(3)　精神科救急医療体制への参加
　オホーツクブロック精神科救急医療体制事業(緊急時の精神科医療確保のため行っている事業)に参加し、救急医療施設として緊急時に対応
(4)　認知症専門医療
　鑑別診断、急性期治療、専門医療相談の実施
(5)　臨床研修の実施
　臨床研修協力施設として、医師の卒後教育を実施
(6)　実習学生等の指導
　看護学生精神科看護実習等の指導を実施
(7)　地域の保健・予防活動への支援
　他関係機関に協力し、地域の保健予防活動、精神保健の普及活動を支援

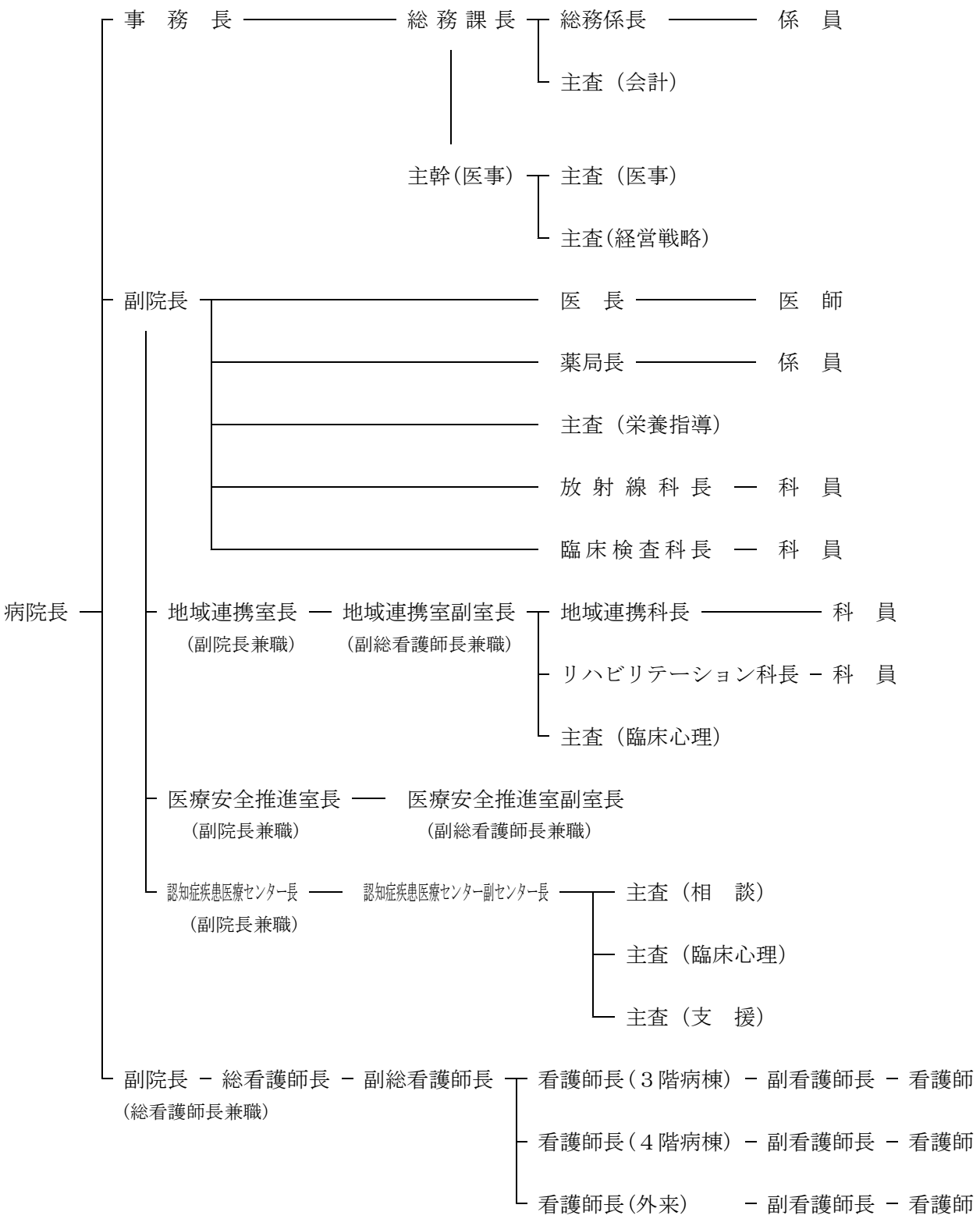
３　施設概況

(1)　所 在 地　　網走市向陽ヶ丘１丁目５番１号
(2)　敷地面積　　27,220.12㎡
(3)　施　　設　　病　　院　鉄筋コンクリート造４階・地下１階建て
　　延面積　6,187.95㎡
　　デイケア棟　鉄筋コンクリート造地上２階・地下１階建て
　　延面積　886.18㎡

４　診療概要　(2017年４月１日現在)

(1)　診療科目　　精神科
(2)　病 床 数　　105床
　　３階病棟(開放・閉鎖)56床　４階病棟(閉鎖)49床
(3)　デイケア　　定員50名
(4)　指　　定　　保険医療機関、生活保護法指定医療機関、国民健康療養取扱機関、
　　労災保険指定医療機関、応急入院指定医療機関、
　　結核予防法指定医療機関、精神科救急施設等指定医療機関、
　　医療観察法指定通院医療機関、指定自立支援医療機関（精神通院医療）
(5)　看護体制　　入院基本料　15：１(看護配置加算70％以上)、看護補助加算2

５　組織機構



（２０１７年４月１日現在）

6 職 員 数

2017年4月1日現在

職種 / 配置箇所		医師	看護師	准看護師	薬剤師	放射線技師	臨床検査技師	栄養士	作業療法士	心理判定員	PSW	事務職員	運転技術員	公務補	調理員	その他	合計
医局		5 (1)															5 (1)
看護	外来		6														6
	3階病棟		28														28
	4階病棟		16														16
薬局					2											(1)	2 (1)
主査(栄養指導)								1									1
放射線科						2											2
臨床検査科							2										2
地域連携室	地域連携科	(兼)	3							1							4
	リハビリテーション科		1						2		1						4
	主査(臨床心理)									1							1
総務課												9					9
認知症疾患医療センター		(兼)	1								1						2
合計		5 (1)	55		2	2	2	1	2	2	2	9				(1)	82 (2)

※ 院長及び副院長は医局に、事務長は総務課、副院長兼総看護師長・副総看護師長は外来に計上

※ ( )は、医師は非常勤委嘱医、その他は一般職非常勤職員であり、外数

※ 臨時職員は含まない。

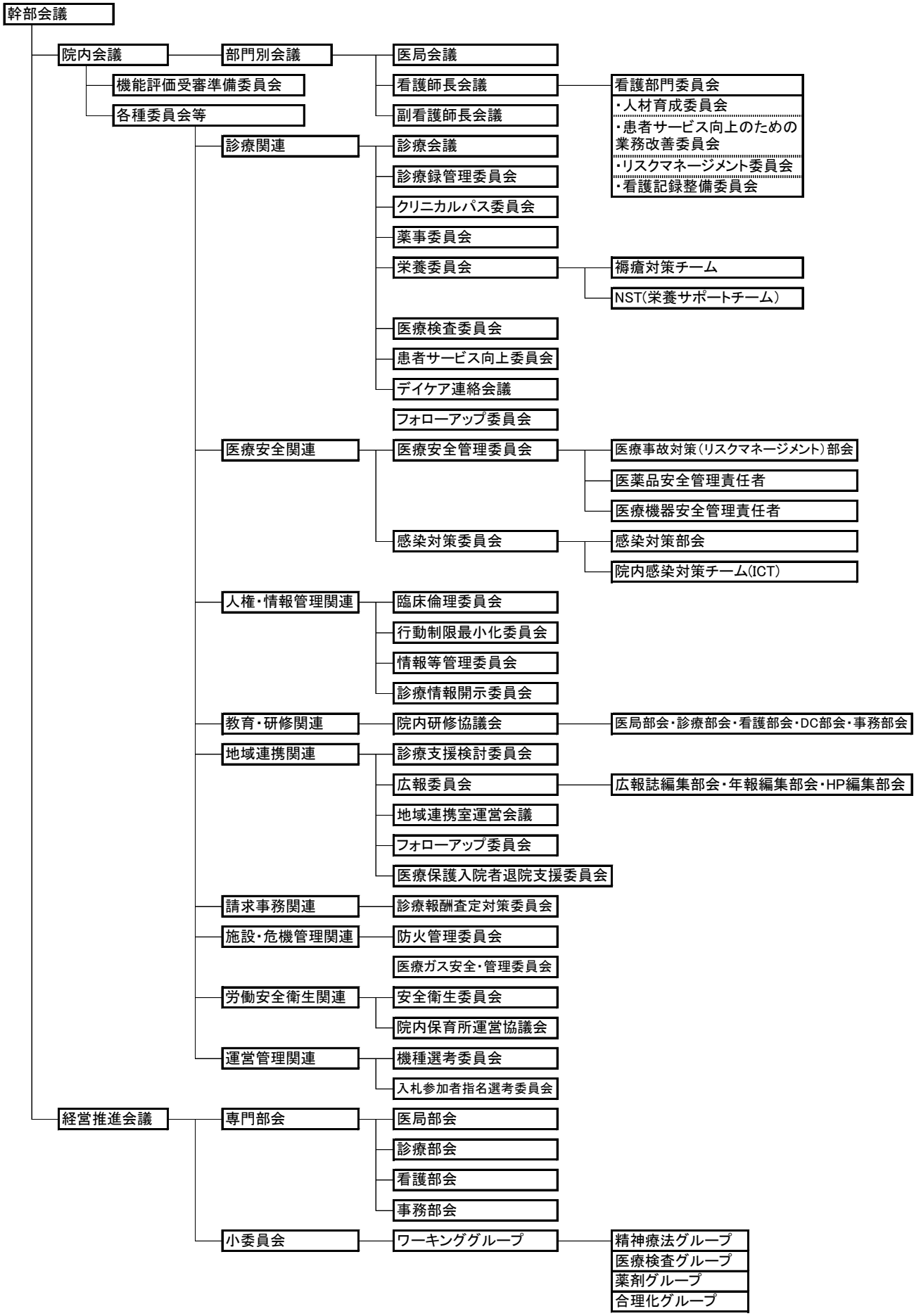
7　院内各種会議・委員会等の設置状況

（2017年４月１日現在）

名　　称	所　　掌　　事　　項
幹　部　会　議	病院の管理運営に関すること
院　内　会　議	病院の運営その他連絡調整に関すること
経営推進会議	北海道病院事業改革プランの推進に関すること
医　局　会　議	医師の業務の連絡調整に関すること
看護師長会議	看護業務の管理運営に関すること
副看護師長会議	看護部門の実践業務に関すること
診　療　会　議	医療業務の連絡調整に関すること
診療録管理委員会	診療記録の作成、保存・管理及び評価に関すること
クリニカルパス委員会	クリニカルパスの導入と運用・管理に関すること
薬　事　委　員　会	医薬品の採用、管理その他薬事に関すること
栄　養　委　員　会	栄養指導、患者給食及び食中毒予防に関すること
褥瘡対策チーム	褥瘡対策に関すること
NST(栄養サポートチーム)	栄養管理対策に関すること
医療検査委員会	医療検査の適正化に関すること
患者サービス向上委員会	患者さまへのサービスの向上に関すること
デイケア連絡会議	デイケアの運営に関すること
医療安全管理委員会	医療の安全管理対策の総合的な企画、実施に関すること
医療事故対策(ﾘｽｸﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ)部会	医療事故の調査、研究その他医療事故の防止に関すること
医薬品安全管理責任者	医薬品の安全管理に関すること
医療機器安全管理責任者	医療機器の安全管理に関すること
感染対策委員会	院内感染防止体制の確立、対策の推進に関すること
感染対策部会	院内感染の予防対策に関すること
院内感染対策チーム	具体的、実践的院内感染対策の実行
臨床倫理委員会	臨床における倫理に関すること
行動制限最小化委員会	行動制限の適正性の確保と最小化に関すること
情報等管理委員会	院内情報の総合的管理に関すること
診療情報開示委員会	診療情報の開示に関すること
院内研修協議会	院内研修会に関すること
診療支援検討委員会	医療機関への診療支援に関すること
広　報　委　員　会	病院の広報に関すること
フォローアップ委員会	入院・外来患者さまの地域支援、長期入院患者さまの退院支援
地域連携室運営会議	地域の医療・福祉・行政機関等との連携に関すること
医療保護入院者退院支援委員会	入院期間の適正化・退院支援に関すること
診療報酬査定対策委員会	診療報酬に係る査定等に関すること
防火管理委員会	防火管理に関すること
医療ガス安全・管理委員会	医療ガス設備の安全管理に関すること
安全衛生委員会	職員の安全衛生、健康管理及び職場環境に関すること
院内保育所運営協議会	院内保育所の運営に関すること
機種選考委員会	医療機器等の機種の選考等に関すること
入札参加者指名選考委員会	指名競争入札等の参加者の指名選考に関すること

会　議　・　委　員　会　等　組　織　図

2017年4月1日現在



第２　業務概要

１　医　局

現在医師５名（精神保健指定医２名）にて院内の診療に当たっている。その他、個々の症例のカンファレンスに加え、各部署の代表者からなる会議、委員会、ワーキンググループへの参加を通じて、院内の他職種と連携を図っている。

院外においては移動精神保健相談、保健所、看護学院、刑務所などで診療、教育、啓発活動を実践している。長期入院患者の退院を積極的に支援する流れが広まり、地域生活支援センター、地域の保健師、訪問看護ステーション、グループホーム、共同作業所などと連携を取りながら、院外での患者の生活支援を検討し、退院促進にも努めている。

なお、外来診療は主治医制を基本とした予約制を導入しており、待ち時間の短縮並びに診察内容の充実を図っている。

(1)　医師配置状況(2017年4月1日現在)

病 院 長　藤　井　　泰
副 院 長　中　村　一　朗
医　　長　　幡　　賢
医　　師　吉　田　雄　介
医　　師　渡　邉　一　由

(2)　外来診察医(2017年4月1日現在)

曜日	Ⅳ　診	Ⅲ　診	Ⅱ　診	Ⅰ　診	午後Ⅲ診	午後Ⅱ診
月	藤　井	中　村	幡	－	－	－
火	藤　井	幡	吉　田	－	中　村	渡　邉
水	藤　井	幡	吉　田	渡　邉	－	－
木	藤　井	中　村	渡　邉	－	幡	吉　田
金	－	中　村	吉　田	渡　邉	－	－

　　枠は新患担当

(3)　担当医(2017年4月1日現在)

外来・デイケア　　中　村　副院長
３階病棟　　吉　田　医　師
４階病棟　　幡　　医　長

2　看　護

(1)　理念

私たち看護職は、心に病を持つ方の健康回復のために支援します。また、地域の医療福祉機関と連携しながら、地域の人々から信頼される医療・看護の提供に努めます。

【方針】

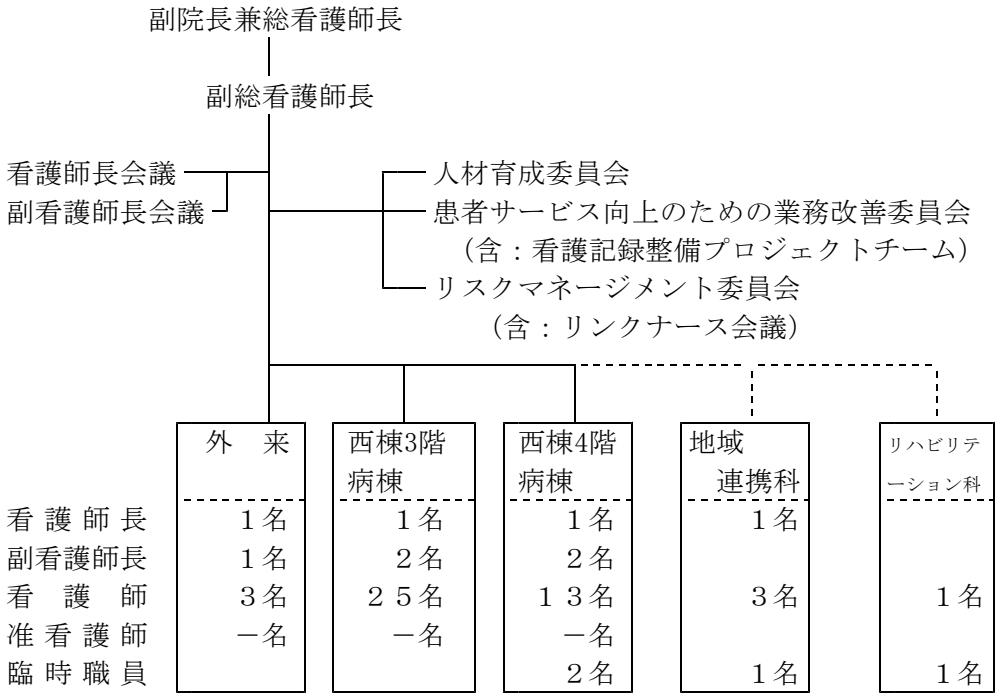
- 看護者の倫理綱領に基づき、心かよう看護を提供します。
- 安全を確保し、心安まる療養環境を整えます。
- 看護の専門性を高め、地域のニーズに応えられる専門職業を目指します。

【目標】

安定的な医療（機能・役割等）を提供するための体制を整備する。

・退院支援の促進
・認知症疾患医療センターの定着
・新しい看護体制の構築

(2)　組織図（2017年4月1日現在）



	外　来	西棟3階病棟	西棟4階病棟	地域連携科	リハビリテーション科
看護師長	1名	1名	1名	1名	
副看護師長	1名	2名	2名		
看　護　師	3名	25名	13名	3名	1名
准看護師	－名	－名	－名		
臨時職員			2名	1名	1名

(3)　看護体制（2017年4月1日現在）

看護単位・・・・・３単位

西棟３階病棟　　開放・閉鎖・・・男女混合５６床
　　開放　３３床　　閉鎖　２３床
　　（保護室　１床、合併症室　１床　を含む）

西棟４階病棟　　閉鎖・・・男女混合　４９床
　　（保護室　５床、合併症室　１床　を含む）

外　　来

地域連携室	地域連携科
	リハビリテーション科

(4) 勤務体制

病棟・・・３交代制、複数夜勤、遅出勤務

(5) 入院基本料

入院基本料　　15：１

看護配置加算（看護師70%以上）

看護補助加算２　50：１

(6) 運営概要

①　看護職員関連

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
離　職　率　（%）	11.4	7.9	17.5	7.0	8.8
平均勤続年数(年)	16.6	16.5	13.1	11.3	10.3
平均年休取得率（%）	68.4	52.5	49.3	33.7	31.4
平均代休取得率（%）	84.4	100.0	100.0	100.0	100.0
病気休暇取得率（%）	0.70	1.02	1.06	0.57	0.70

（年休取得率＝当該年度の取得日数／当該年度の付与日数）前年度からの繰越日数は含まない

②　医療安全関連

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
アクシデント発生率（%） （ｱｸｼﾃﾞﾝﾄ=ﾚﾍﾞﾙ2以上）	32.7	6.0	12.6	13.9	9.8
針刺し事故発生件数　（件）	0	0	0	0	1
公務災害認定発生件数（件）	1	0	2	0	1
褥瘡発生率（%）	1.32	8.40	11.00	3.18	2.27

＊褥瘡発生率＝当月の褥瘡発生者数÷当月の入院患者数＋前月の在院患者数

＊2013年度より医療事故等のレベル基準を改正

(6) 病棟の概要

病 棟 名	概　　要
西棟３階病棟	病棟は56床の混合病棟で閉鎖23床、開放33床に分かれている。 閉鎖フロアは主に老年期精神疾患患者が対象になっており、吸引・酸素の設備を設置している個室が6室、4床室が4室、ナースステーションに隣接した合併症室が1室あり、内科疾患合併症患者の身体管理も行っている。 患者は認知症の中等度から高度の症状を呈し、周辺症状である行動障害やせん妄の精神症状を伴い、薬物療法を中心に治療を行っている。生活全般における介助、身体管理、摂食嚥下訓練対象者が多い現状にあり、また、患者の日常生活援助や認知症の症状による暴力等の対応から、看護師2人での対応を基本としている。患者の多くは自ら身体不調を訴えることが出来ないため、異常の早期発見、転落、転倒等安全面への配慮に努めている。また、合併症等による基礎疾患や薬物による副作用などで全身状態が変化しやすく、全身管理が必要となっており、日常生活能力の低下防止を目的とした作業療法プログラムやふまねっと運動を実施している。 開放フロアは、吸引・酸素の設備を設置した個室が5室、その他の個室が7室、4床室が5室、保護室が1室あり、開放時間は8時から18時までである。 患者は統合失調症のほか、感情障害、神経症、てんかん、依存症、人格障害などの方であり、患者の多くは、閉鎖病棟で急性期治療を終え、退院前のリハビリ目的の転入や再燃を繰り返す長期入院の統合失調症の患者である。 患者の平均年齢は69歳で平均在院日数は124.8日（2016年度）。高齢化に伴い、身体合併症の患者が増加しており、患者参加型の看護計画を実践し、日々の看護により自己の回復能力を高めるよう支援している。また、セルフケア能力の低下予防と向上を目的に作業療法士と連携し、個別性を考慮した作業療法プログラムの選択と参加を行っている。 退院支援については、患者に適した生活環境提供のため本人・家族と相談し退院前訪問看護の実施や施設職員・ケアマネ-ジャ-など地域関係者との連携を積極的に行い、退院後も患者・家族が安心して生活できるように他職種カンファレンスを行いながら支援している。
西棟４階病棟	保護室5室を有する49床の閉鎖病棟である。患者の62%（2016年度）が統合失調症の患者であり、他に気分障害、神経症、依存症、人格障害、認知症などの方である。主に急性期症状を呈している患者や、統合失調症の慢性期でセルフケア能力が低下したり、再燃・緩解を繰り返す病状が不安定な患者の入院治療を行っている。 平均在院日数は131.5日（2016年度）で、慢性期患者の場合、病状の再燃を繰り返し入院が長期化している。長期入院に伴い、患者や家族の高齢化により、外泊・面会などの機会も減り、社会と接する機会が少なくなっており、また、生活習慣病等の身体疾患や合併症が重なり、セルフケア能力の低下、全身管理の必要な患者が増加し、治療・看護へのニーズが多様化してきている。 退院支援として、作業療法やSST（社会生活技能訓練）等、他職種との連携を図り、対人関係能力の向上や日常生活課題の改善に向けて取り組んでいる。デイケアの院内試験通所や退院前訪問看護、地域との連携を実施し、退院後安定した生活が送れるように支援している。

(7) 外来の概要

精神科医療は、入院治療中心から地域で生活することへの支援に変化しており、精神疾患を持ちながらも症状をコントロールし、地域でその人らしく生活できることを目指した生活支援へと外来の役割が拡大されつつある。当院は道東北地域の精神医療の専門病院としての役割を担い、精神科救急医療体制（オホーツクブロック）への参加、認知症疾患医療センターの設置、児童発達外来サテライト診療を実施している。

診療体制は患者のサービス向上を目的とし、2010(平成22)年６月から再来患者の完全予約診療を行っており、2016年６月からは新規外来患者の予約制を開始。午前３診療（水曜日のみ４診療)、火・木曜日は午後の診療も行っている。

看護の主な業務は、診療介助、訪問看護、院内の医材料一元管理のため中央材料室を担当している。中央材料室業務は、各セクションの医療衛生材料及び器材の管理を行っている。

訪問看護は週５回実施しており、看護計画を立案し患者の病状変化に合わせて実施している。不定期で行っていた市外訪問は地域支援の充実拡大を図るため地域の要望を踏まえ2007年度から定期的に実施し訪問件数が増加している。

2016(平成28)年度については訪問看護対象者は153名で、訪問看護件数は2,125件となっている。

地域との連携では、作業所・共同住居及び保健・福祉関係者とのサポート会議・ヘルパー会議などへの参加、デイケア会議への情報提供、アルコール依存症ミーティング（AA）の支援などを行っている。

なお、2017年(平成29年)４月に地域連携室地域連携科が新規設置となり、地域との連携や訪問看護については地域連携科において行っている。

外来訪問看護件数の推移

月／年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計	月平均
2011年度	83	78	98	116	125	114	128	125	150	145	147	145	1,454	121.2
2012年度	150	159	165	167	168	163	169	161	144	153	161	167	1,927	160.6
2013年度	175	170	172	181	185	189	191	187	186	186	165	185	2,172	181.0
2014年度	188	188	185	182	176	179	187	183	154	177	177	177	2,153	179.4
2015年度	185	176	190	189	185	187	191	191	186	166	172	171	2,189	182.4
2016年度	160	177	170	168	164	177	171	183	180	180	191	204	2,125	177.1

3　薬 局

２０１３年から２０１５年の３年間は欠員のため１人体制で稼働していましたが、２０１６年４月に補充され２名体制となりました。やむなく業務を休止してした持参薬管理等を含む薬剤管理指導業務は、準備期間を経て同年１０月より開始致しました。薬局では以下の業務を中心に実施しています。

（1） 外来処方

当院では原則として院外処方箋を発行し、院外の保険調剤薬局でお薬を受け取っていただきます。

（2） ２０１６年度　月別業務量

	入院処方			入院注射	外来（院内）			外来注射	持参薬	院外処方	
	枚数	調剤数	延剤数	枚数	枚数	調剤数	延剤数	枚数	枚数	枚数	発行率
4月	498	1,776	12,042	376	7	22	602	212	―	1923	99.64
5月	449	1,522	9,842	531	4	12	368	205	―	1849	99.78
6月	506	1,669	12,009	348	6	16	476	194	34	1889	99.68
7月	505	1,466	9,317	327	4	12	406	192	117	1886	99.79
8月	494	1,481	10､297	331	4	10	296	207	171	2067	99.81
9月	463	1,375	10,286	270	5	13	436	212	136	1853	99.73
10月	399	1,170	9,077	248	6	12	323	191	144	1848	99.68
11月	389	1,208	8,878	252	5	13	415	199	150	1959	99.75
12月	482	1,377	10,318	330	8	20	553	197	128	1835	99.57
1月	450	1,422	9,892	226	5	14	248	190	142	1766	99.72
2月	522	1,622	10,778	295	6	13	382	176	144	1680	99.64
3月	571	1,776	12,042	234	4	9	226	224	155	1951	99.80
合計	5,728	17,864	124,778	3,768	64	166	4,731	2,399	1,321	22,506	99.72

※持参薬管理（入院）：H28年6月より薬局管理

（3） 疑義照会件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	―	―	91	208	86	103	102	110	59	40	65	77	941

※H28年6月より薬局対応

（4） 薬剤管理指導業務件数

常勤薬剤師が平成２８年４月より２名となり１０月より開始

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	―	―	―	―	―	―	29	32	40	40	46	56	243

※退院時指導件数を含む

（5） その他

・医薬品等の情報提供（Drug news 発行）
・後発医薬品の使用促進
・院内に配置されている医薬品管理
・診療委員会／感染対策委員会／医療安全委員会／栄養委員会／薬事委員会・・・　など

４　栄養指導部門

(1)　業務概況

2012年診療報酬の改定に伴い、栄養管理実施加算が廃止され、栄養管理体制は入院基本料に包括評価となった。このことを受けて当院では入院患者全員に栄養計画及び栄養評価を行っている。

また、褥瘡対策チーム・栄養サポートチームの一員として医師や看護師その他の職種と連携して低栄養、嚥下障害などに対応している。

摂食嚥下障害のある患者さんが近年増加傾向にあるので、患者さん個々の嚥下状態に合った食事作りに力を入れており、嚥下調整食の基準は日本摂食嚥下リハビリーテーション学会嚥下調整食分類2013年版に準じている。

2016年6月の改築移転に伴い大量調理マニュアルに沿った調理施設となり、衛生管理が充実され、また、ブラストチラー（急速冷却機）の導入により嚥下調整食の調理作業が効率的に行えるようになった。

2012年6月から献立作成、調理業務全てを外部委託している。

(2)　特別食

身体合併症のある患者さんには特別食を提供している。種類は糖尿病食、肝臓食、腎臓食、膵臓食、貧血食、心臓食、低残渣食などである。菓子や清涼飲料水の多量摂取による高中性脂肪血症や肥満の患者さんが多い傾向である。

(3)　行事食

正月・節句・春秋の彼岸等、季節ごとの行事食のほか、月1回「おやつの日」をもうけている。また、毎月1回、誕生会として入院患者さんにお菓子を提供し誕生月の方にはバースデイカードを添えている。

(4)　栄養指導

栄養指導が必要な患者さんには精神症状などで困難な場合を除き、栄養指導を実施している。高度肥満症、糖尿病、アルコールパスなどが主な指導である。集団栄養指導は主にデイケア通所者を対象に行っており、月1回程度デイケアプログラム「食と健康の講座」と称して、食事、運動など通所者が健康生活に役立つ内容で行っている。

(5)　食種別給食数(デイケア食含む)

（単位：食）

	常食	軟菜食	流動食	経管流動	特別食	嚥下調整食	合計
2012年度	50,977	50,932	332	1,758	15,701	724	120,424
2013年度	45,517	48,021	528	1,758	21,778	884	118,486
2014年度	51,394	42,896	51	995	17,000	578	112,914
2015年度	36,274	46,375	752	1,012	19,640	1,095	105,148
2016年度	27,505	28,071	1,979	2,294	16,068	10,588	86,505

(6)　１食当たり平均給食数(デイケア食含む)

（単位：食）

	常食	軟菜食	流動食	経管流動	特別食	嚥下調整食	合計
2012年度	46.5	46.5	0.3	1.6	14.3	0.7	109.9
2013年度	41.5	43.8	0.5	1.6	19.8	0.8	108.2
2014年度	46.9	39.1	－	0.9	15.5	0.5	103.1
2015年度	33.1	42.3	0.7	0.9	17.9	1.0	96.0
2016年度	25.1	25.6	1.8	2.1	14.7	9.7	79.0

(7)　栄養指導件数（個別）

（単位：件）

年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
件数	75	109	142	90	77

5　放射線科

(1)　ＣＴ検査

ＣＴ検査は、初診時における頭部検査が主流であるが、高齢化も進み胸部・腹部の検査も重要である。

２０１６年度は病院新築に伴い病床数を削減したため、入院患者においては減となり全体的に減少となった。

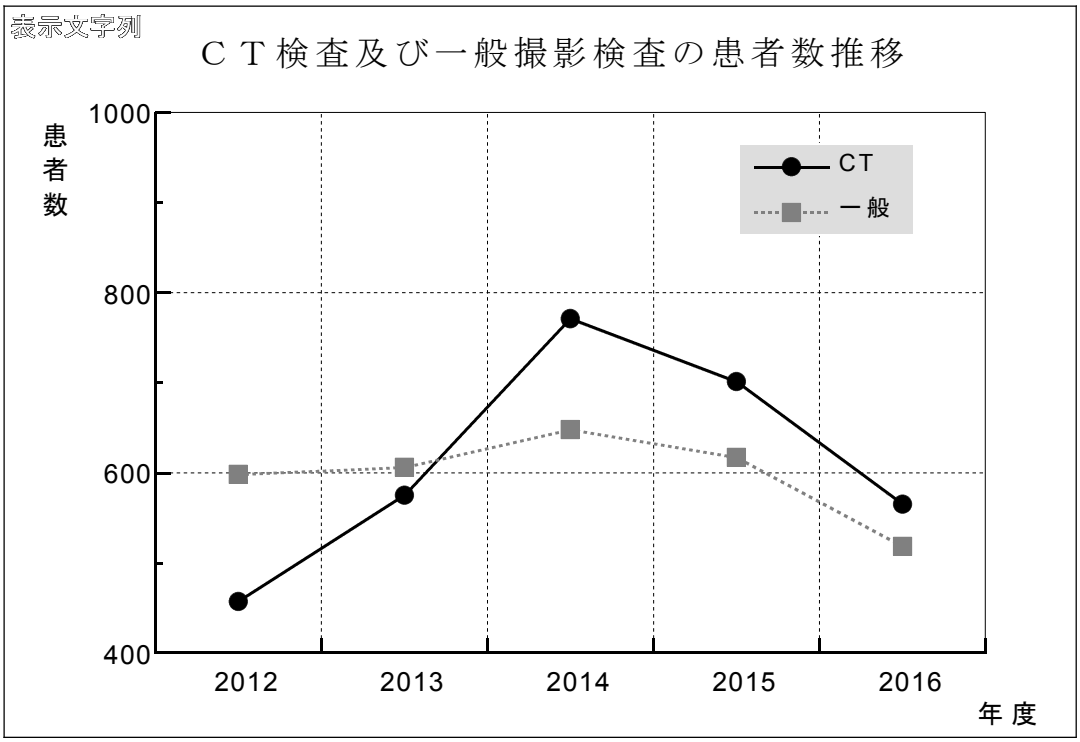
(2)　一般撮影

一般撮影検査の主たるものは、入院時における胸部・腹部単純撮影である。

２０１６年度は上記同様、入院患者においては減となり全体的に減少となった。

(3)　ＣＴ・一般Ｘ線撮影検査患者数の推移（2012 ～ 2016 年度　単位：人）

区分	入院･外来別	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
CT検査	入院	295	353	397	380	256
	外来	162	222	374	321	309
合　計		**457**	**575**	**771**	**701**	**565**
一般撮影	入院	525	493	545	516	404
	外来	73	113	103	101	114
合　計		**598**	**606**	**648**	**617**	**518**



6　臨床検査科

（1）臨床検査業務概況

①　過去5年間（2012～2016)の臨床検査業務

検査業務全般は、2013年の外来パス検査の導入により、 2年連続増加していたが2015年度・2016年度は対前年度比約10%の減となっている。

②　2016年度の臨床検査業務

2013年の外来パス検査の導入により、定着傾向にあった外来部門検査患者数が2016年度においても前年度比約10%減となり減少傾向が継続している。

細菌検査については、院内感染対策指針や感染対策マニュアルが改訂され、2008年度に外部委託となり、過去3年間の横這い状況から増加に転じている。

（2）年度別臨床検査件数

年度	区分	生化学	免疫	血液	尿･便	細菌	薬物	生　理			その他	合計
								脳波	心電図	聴力		
2012	院内	52,787	3,634	15,256	1,801	14	742	46	353	2	2	74,637
	委託	254	3	14	0	152	19	0	0	0	0	442
	合計	53,041	3,637	15,270	1,801	166	761	46	353	2	2	75,079
2013	院内	69,650	4,503	19,755	2,463	12	933	41	421	1	1	97,780
	委託	292	4	0	0	79	11	0	0	0	1	387
	合計	69,942	4,507	19,755	2,463	91	944	41	421	1	2	98,167
2014	院内	74,579	4,617	20,950	2,516	12	759	38	419	2	0	103,892
	委託	542	4	0	0	103	2	0	0	0	0	651
	合計	75,121	4,621	20,950	2,516	115	761	38	419	2	0	104,543
2015	院内	67,478	3,308	19,620	2,542	12	692	29	407	2	2	94,092
	委託	292	6	0	0	94	15	0	0	0	0	407
	合計	67,770	3,314	19,620	2,542	106	707	29	407	2	2	94,499
2016	院内	61,050	2,976	18,428	2,075	12	573	34	303	7	7	85,465
	委託	561	9	0	0	130	49	0	0	0	0	749
	合計	61,611	2,985	18,428	2,075	142	622	34	303	7	7	86,214

７　地域連携室　地域連携科

平成29年4月1日に地域連携室が設置され、地域連携科が新規設置となった。地域連携科は地域連携科長（看護師）１名、看護師３名、精神保健福祉士１名で構成しており、地域との連携を担うとともに訪問看護を行っている。

訪問看護は平日日中で週５日、１日平均10～12件実施している。看護師２名が患者の自宅に伺い患者・家族が安心して生活できるように、病気や薬・通院についての不安、家事・日常生活・金銭管理についての相談や必要な支援などを行っている。平成29年12月現在、146名の利用者がおり、網走市内の他に大空・美幌・斜里・小清水・清里など市外訪問も行っている。患者・家族の思いに寄り添えるよう、患者参加型の看護計画を立案し目標を共有している。

地域連携では作業所・共同住居・保健福祉関係者への連絡や情報交換を行い、患者サポート会議（年12回）、ヘルパー会議（年6回）に参加している。院内では病棟、外来との連絡会議（年12回）に参加し、入院中の患者が安心して在宅に移行できるよう、病棟と連携して退院前訪問を行っている。

精神保健福祉士は、主に地域との連携窓口を担い、電話や来院による相談や入退院調整を行うとともに病棟のケース会議に参加し、患者の個別性を配慮した地域移行支援に取り組んでいる。また、地域連携のための各種会議「医療観察ケア会議」「医療と介護等の連携体制の構築に向けた取り組み」「北網圏域地域生活移行支援協議会」などに参加し患者・家族の支援を行っている。

8　地域連携室 リハビリテーション科（デイケア部門）

当院デイケアは、オホーツク医療圏では初めて開設され、1996年7月1日に本格的に活動が開始された。2008年4月からは、デイケアショート利用を導入し、デイケアの半日利用を可能にすることにより、患者の利便性の向上を図っている。2012年1月から水曜日も通所日にあて、平日の毎日通所（週５日）となった。

施設区分は、「病院併設型・大規模デイケア」とされ、定員50名となっている。

スタッフは、医師(兼務)１名、看護師２名、精神保健福祉士１名、作業療法士１名、の合計５名で構成され、加えてプログラム講師８名を外部に委嘱している。2004年度より固定ボランティアを導入、現在３名が在籍している。

(1)　通所者（メンバー）

表1　利用者数　（単位：日、人）

		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
開所日数		245	242	241	239	242
延べ通所者数		7,797	8,711	9,045	8,413	7,640
１日平均通所者数		31.8	36.0	37.5	35.2	31.6
新規登録者数		12	8	5	9	3
登録者数		93	85	77	86	80
	男性	64	61	56	62	56
	女性	29	24	21	24	24

表２　疾病別　（単位：人）

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
統合失調症	74	67	60	72	66
躁うつ病	3	3	3	2	2
てんかん	3	3	3	2	1
薬物依存	3	2	1	1	1
非定型精神病	0	0	0	0	0
その他	10	10	10	9	10

(2)　デイケアプログラム

木曜午後は月に１回、「ｸﾞﾙｰﾌﾟﾐｰﾃｨﾝｸﾞ」、「茶道」「食と健康の講座」（管理栄養士の話）を実施しており、自主活動の中で、毎日「ダンベル体操」を行っている。行事としては「デイケア展」、「クリスマス会」をメンバーと検討しながら行った。不定期に、メンバー主体で発案した行事（芝桜見学、写生会、収穫祭）も開催している。

表3　週間プログラム(2016年12月現在)

	月	火	水	木	金
9：00	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会
10：00	陶芸	絵画	フットサル	スポーツ	福祉の店
12：00	自主活動	自主活動	自主活動	自主活動	自主活動
	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
13：00	料理	全体ミーティング SST	手芸	週替プログラム	七宝
	自主活動		自主活動		自主活動
15：00					
16：00	終わりの会	終わりの会	終わりの会	終わりの会	終わりの会

９　地域連携室 リハビリテーション科（作業療法部門）

当院での精神科作業療法は、１９９４年７月に承認を得て開始となる。

医師（兼務）１名、作業療法士１名、助手（非常勤職員）１名で構成されていたが非常勤職員の退職に伴い助手の配置が２０１５年３月で終了となった。

作業療法の週間プログラムは、作業療法士が中心となって病棟内で行うものと、講師と共に生活療法室や訓練棟など病棟以外の場所で行うものがある。以前は月に２～３回の講師指導日のみの変則的な活動だったが、２００２年４月以降は毎週実施となる。

２００８年は第４病棟休床に伴い週間プログラムを変更し、定期的にカンファレンスを実施する状況となった。２００９年には高齢者の増加に伴い転倒予防のプログラムとして「ふまねっと運動」を導入した。病棟看護師で実施していたSSTだが２０１５年から作業療法士も加わるようになりグループホームやケアホームなどの施設を見学するなどし長期入院者が退院後の生活を現実的に考えられるよう取り組んだ。

改築移転にあわせ２０１６年６月から週間プログラム変更、年齢や状態に合わせ参加しやすいよう構成した。

２０１７年度から組織機構が変わり作業療法科から地域連携室リハビリテーション科作業療法部門となる。

表1　週間プログラム(2016年6月～)

	月	火	水	木	金
9:45	4F病棟　SST	創作活動	調理	3F病棟 ふまねっと運動	体力作り
11:45					
14:00	3F病棟　SST	悠々音楽会	4F病棟 ふまねっと運動	4F病棟 買い物ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ	悠々体操
16:00					

表2　活動状況

		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
開催日数		234	228	232	224	224
参加数		5,644	5,360	4,801	5,173	4,813
算定数		5,047	4,877	4,406	4,980	4,380
一日平均	参加数	24.1	23.5	20.7	23.1	21.5
	算定数	21.6	21.5	19.0	22.2	19.6

10　地域連携室　臨床心理部門

臨床心理業務は、心理学の知識や技法をベースとして、患者の心理・行動面の障害の治療や援助を行うものである。具体的には以下のとおりに、心理アセスメントの一つとしての心理検査や各種の心理療法の提供などが挙げられる。

認知症疾患医療センターの配属として、もの忘れ外来にて認知症の鑑別診断や認知機能の確認のための認知機能検査を行う他に、一般外来や入院患者に対しても認知機能検査を実施している。また、認知症以外の患者に対しても知能検査や人格検査などの心理検査やカウンセリング業務を行っている。

さらに、平成15年度から継続している児童発達外来サテライト診療として、対象者や家族への対応を継続している。

(1)　心理検査　及び　認知機能検査

心理検査は、知能検査を中心に、各種人格検査や認知機能検査を実施することで、診断や治療、リハビリテーション等のための重要な情報の一つになる。

認知機能検査は、認知症の鑑別診断として、また認知機能の程度を把握していくために実施している。限られた時間内に患者の負担少なく効率よく行うために、検査バッテリーの組み方を検討しながら実施している。

表1　今年度実施した主な心理検査

WAIS-Ⅲ成人知能検査	WISC-Ⅲ知能検査	全訂版田中ビネー知能検査
リバーミード行動記憶検査	BADS	ロールシャッハテスト
ベンダーゲシュタルトテス	PFスタディ	バウムテスト
Y－G性格検査	K-SCT構成的文章完成法	AQ

今年度実施した認知機能検査

ADAS	ベントン視覚記銘検査	前頭葉機能検査(FAB)
時計描画テスト	ノイズパレイドリアテスト	

表２　心理検査件数　（人）

	認知症検査				一般心理検査			合計
	外来	もの忘れ外来	入院	小計	外来	入院	小計	
2014年度	28	79	23	130	30	23	53	183
2015年度	11	149	25	185	31	44	75	260
2016年度	20	100	11	131	86	28	114	245

(2)　個人心理療法

個人心理療法は、支持的カウンセリングを主体に、認知行動療法的技法などを取り入れながら実施している。対象者は主に統合失調症圏以外の患者であり、就学・就労中の方も多い。週1回～月1回の頻度で実施している。自分自身を客観的に捉えていく自己分析力を高め、コーピング力を身につけていくことが目標である。

表３　個人心理療法の件数

	外来患者	入院患者	合計
2014年度	273	37	310
2015年度	291	14	305
2016年度	278	12	290

(3)　児童発達外来サテライト診療

発達障害圏の7名の対象者に対して　毎月第4木曜日に継続実施している。主に母親に対して、対象となるお子さんの日常生活行動に対する対応の仕方等についての指導が中心である。

実施回数：12回　５1件

11　認知症疾患医療センター

北海道立向陽ケ丘病院認知症疾患医療センターは、オホーツク三次保健医療福祉圏における認知症疾患の保健医療水準向上を図るためのものであり、具体的には保健・医療・福祉・介護機関等と連携し、鑑別診断、急性期医療、専門医療相談等を実施するとともに、関係者への研修等を行うこととしています。

＜実績＞

1　もの忘れ外来における診療について　　単位：人

	新規患者	専門医療相談	急性期入院	医療機関からの紹介
2014 年度	149	187	8	45
2015 年度	166	184	10	45
2016 年度	161	318	19	61

2　もの忘れ外来新規患者各内訳

1）居住地　　単位：人（%）

	網走市	斜里町	清里町	小清水町	大空町	その他
2014 年度	87（58）	27（18）	8（5）	4（3）	6（ 4）	17（12）
2015 年度	96（59）	30（18）	4（2）	7（4）	10（ 6）	19（11）
2016 年度	100（63）	23（14）	7（4）	7（4）	16（10）	8（ 5）

2）年齢　　単位：人（%）

	～50	60～	70～	80～	90～
2014 年度	4（3）	8（5）	57（38）	65（44）	15（10）
2015 年度	5（3）	13（8）	40（24）	80（48）	28（17）
2016 年度	4（3）	15（9）	56（35）	62（38）	24（15）

3）疾患　　単位：人（%）

	アルツハイマー型認知症	血管性認知症	前頭側頭型認知症	レビ-小体型認知症	混合性認知症	軽度認知障害	その他
2014 年度	106（71）	5（4）	4（3）	2（1）	1（1）	5（3）	26（17）
2015 年度	113（68）	7（4）	1（1）	5（3）	1（1）	4（2）	35（21）
2016 年度	94（56）	4（3）	2（2）	2（2）	1（1）	10（6）	48（30）

3　専門医療相談内容　　単位：人（%）

	もの忘れ外来受診	病状・症状	その他
2014 年度	158（85）	16（ 8）	13（ 7）
2015 年度	171（93）	7（ 4）	6（ 3）
2016 年度	190（59）	40（13）	88（28）

4 地域啓蒙活動について

1）老人クラブ各会員向け　6 件（大空町本郷いなほ老人クラブ他）
2）地域住民向け講演会　1 件（東藻琴市街寿クラブ）
3）イベント参加　4 件（ふれあいタウンしゃり 2016 他）

5 研修会の開催について

1）研修会講師派遣　3 件(北海道認知症の人を支える家族の会他)
2）医療及び介護関係者等への研修会
1 件（認知症疾患医療センター 認知症疾患事例検討会）

第３　診療概況

１）　年度別、病棟別入院患者動態

（入院患者数、１日平均患者数、入退院患者数、病床利用率、平均在院日数）

	病　棟 (病床数)	区　　分	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
旧病院	第１病棟 （３５）	延入院患者数	8,882	8,802	9,631	9,144	1,679
		１日平均患者数	24.3	24.1	26.4	25.0	21.0
		入院患者数	54	77	73	51	12
		退院患者数	66	74	63	63	11
		病床利用率	69.5	68.9	75.4	71.4	60.0
		平均在院日数	146.9	115.6	140.7	159.3	145.0
	第２病棟 （５７）	延入院患者数	16,178	14,495	12,892	11,233	2,302
		１日平均患者数	44.3	39.7	35.3	30.7	28.8
		入院患者数	78	72	67	61	10
		退院患者数	95	100	115	109	18
		病床利用率	77.8	69.7	62.0	53.8	50.5
		平均在院日数	185.9	167.4	140.4	130.9	163.1
	第３病棟 （５４）	延入院患者数	15,407	15,504	14,531	13,906	2,502
		１日平均患者数	42.2	42.5	39.8	38.0	31.3
		入院患者数	106	105	111	121	23
		退院患者数	84	82	67	90	13
		病床利用率	78.2	78.7	73.7	70.4	57.9
		平均在院日数	161.3	164.9	162.5	131.0	138.3
新病院	西　棟 ３階病棟 （５６）	延入院患者数					10,891
		１日平均患者数					38.2
		入院患者数					73
		退院患者数					100
		病床利用率					68.2
		平均在院日数					124.8
	西　棟 ４階病棟 （４９）	延入院患者数					10,713
		１日平均患者数					37.6
		入院患者数					83
		退院患者数					60
		病床利用率					76.7
		平均在院日数					149.0
合　計		延入院患者数	40,467	38,801	37,054	34,283	28,087
		１日平均患者数	110.9	106.3	101.5	93.7	77.0
		入院患者数	238	254	251	233	201
		退院患者数	245	256	245	262	202
		病床利用率	75.9	72.8	69.5	64.3	67.5
		平均在院日数	166.6	151.2	148.4	137.5	138.4

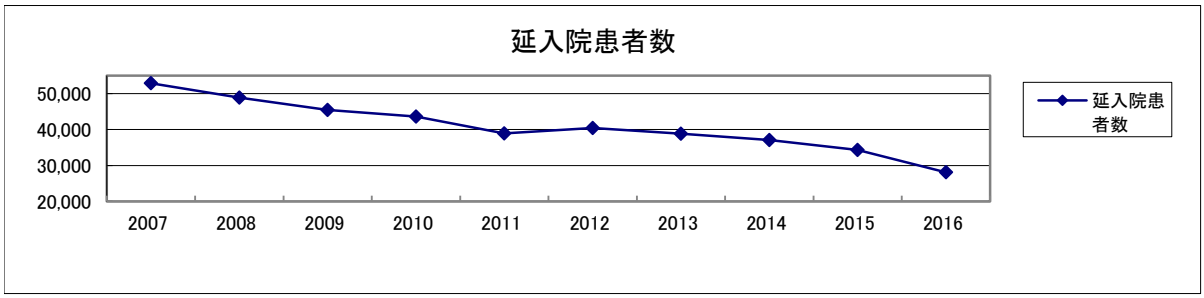
※　旧病院体制（146床）、2016年6月20日より新病院体制（105床）

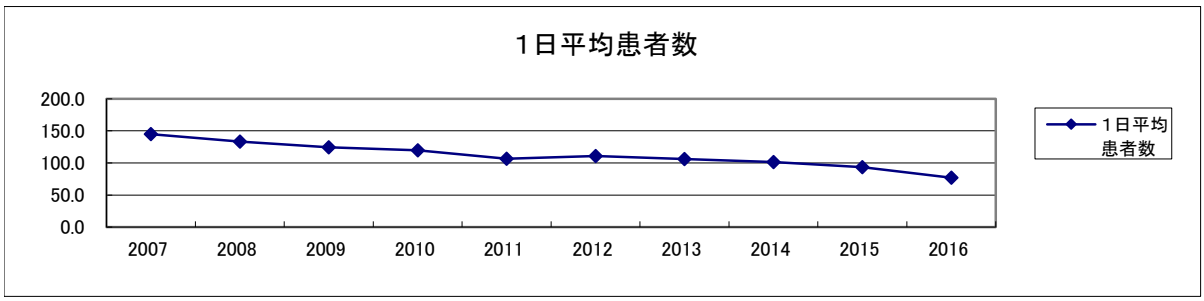
年 間 の 患 者 動 態

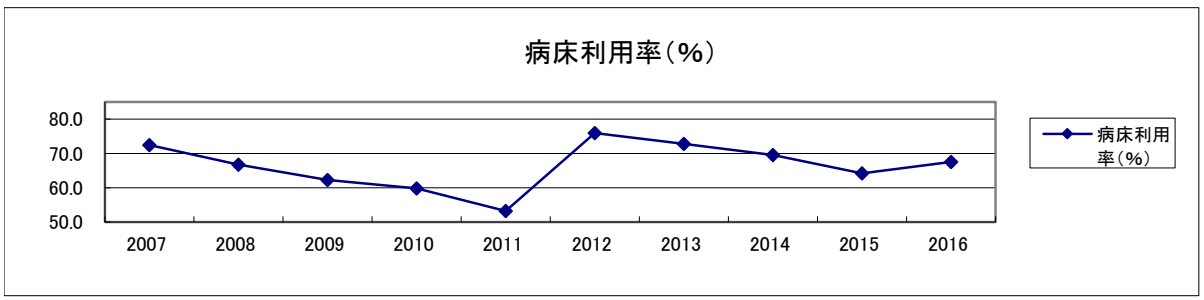
延入院患者数・1日平均患者数・入院患者数・病床利用率・平均在院日数　(2007～2016年度)

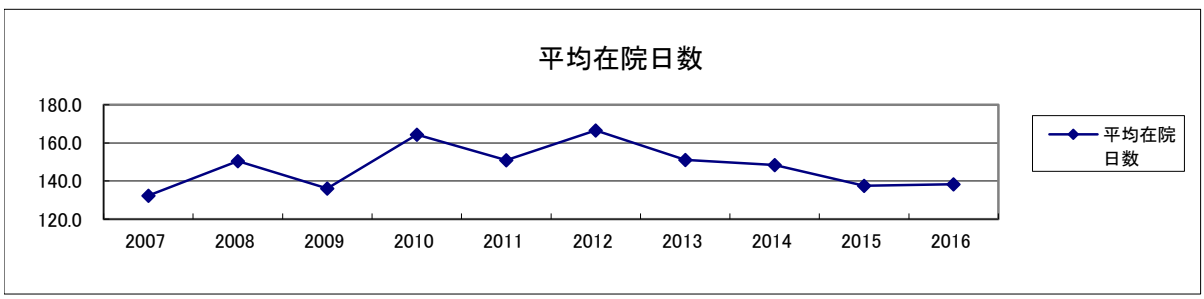
区分	延入院患者数	1日平均患者数	入院患者数	退院患者数	病床利用率(%)	平均在院日数
2007	52,880	144.9	396	397	72.4	132.4
2008	48,874	133.5	311	334	66.8	150.5
2009	45,429	124.5	336	327	62.2	136.1
2010	43,643	119.6	258	270	59.8	164.3
2011	38,960	106.4	258	255	53.2	150.9
2012	40,467	110.9	238	245	75.9	166.6
2013	38,801	106.3	254	256	72.8	151.2
2014	37,054	101.5	251	245	69.5	148.4
2015	34,283	93.7	233	262	64.2	137.5
2016	28,087	77.0	201	202	67.5	138.4

(注)1　2012年3月15日、許可病床数が200床から146床へ変更
(注)2　2016年6月20日、許可病床数が146床から105床へ変更









２－１　新入院患者の病名別・形態別患者数及び割合

２０１２年度

（単位：人）

病　名	措置入院	医療保護入院	任意入院	その他	合　計
F00　アルツハイマー型認知症		28	6		34
F01　血管性認知症		6	2		8
F02　その他の疾患による認知症		9			9
F05　せん妄		7	5		12
F0　（上記以外の疾患）		3	1		4
F10　アルコール使用による障害		1	9		10
F1　（上記以外の疾患）		1	5		6
F20　統合失調症		27	58		85
F2　（上記以外の疾患）			2		2
F30　躁病エピソード					
F31　双極性感情障害		9	17		26
F32　うつ病エピソード		1	10		11
F33　反復性うつ病性障害			2		2
F3　（上記以外の疾患）			2		2
F40　恐怖性不安障害					
F41　他の不安障害			5		5
F42　強迫性障害			1		1
F43　重度ｽﾄﾚｽ反応及び適応障害		1	2		3
F44　解離性（転換性）障害					
F45　身体表現性障害			2		2
F4　（上記以外の疾患）					
F50　摂食障害			1		1
F51　非器質性睡眠障害			1		1
F5　（上記以外の疾患）					
F6　成人のﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨｰ及び行動の障害		1			1
F7　精神遅滞		2	2		4
F84　広汎性発達障害			1		1
F8　（上記以外の疾患）					
F90　多動性障害					
F9　（上記以外の疾患）		1			1
G40　てんかん		2	4		6
その他		1			1
合　計		100	138		238
構成比％		42.0	58.0		100.0

２０１３年度

（単位：人）

病　名	措置入院	医療保護入院	任意入院	その他	合　計
F00　アルツハイマー型認知症		51	7		58
F01　血管性認知症		7	6		13
F02　その他の疾患による認知症		1	5		6
F05　せん妄		2			2
F0　（上記以外の疾患）		2	6		8
F10　アルコール使用による障害		6	7		13
F1　（上記以外の疾患）					
F20　統合失調症	4	27	48		79
F2　（上記以外の疾患）					
F30　躁病エピソード					
F31　双極性感情障害		4	7		11
F32　うつ病エピソード		2	2		4
F33　反復性うつ病性障害					
F3　（上記以外の疾患）		9	19		28
F40　恐怖性不安障害					
F41　他の不安障害			2		2
F42　強迫性障害					
F43　重度ｽﾄﾚｽ反応及び適応障害		1			1
F44　解離性（転換性）障害					
F45　身体表現性障害					
F4　（上記以外の疾患）					
F50　摂食障害			2		2
F51　非器質性睡眠障害					
F5　（上記以外の疾患）					
F6　成人のﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨｰ及び行動の障害		2			2
F7　精神遅滞		7	1		8
F84　広汎性発達障害					
F8　（上記以外の疾患）					
F90　多動性障害					
F9　（上記以外の疾患）					
G40　てんかん		4	2		6
その他		9	2		11
合　計	4	134	116		254
構成比％	1.6	52.8	45.7		100.0

２０１４年度

（単位：人）

病　名	措置入院	医療保護入　院	任　意入　院	その他	合　計
F00　アルツハイマー型認知症		37	10		47
F01　血管性認知症		7	4		11
F02　その他の疾患による認知症		9	3		12
F05　せん妄		2			2
F0　（上記以外の疾患）					
F10　アルコール使用による障害		3	11		14
F1　（上記以外の疾患）			3		3
F20　統合失調症		39	49		88
F2　（上記以外の疾患）		2	2		4
F30　躁病エピソード					
F31　双極性感情障害		4	14		18
F32　うつ病エピソード		4	13		17
F33　反復性うつ病性障害			2		2
F3　（上記以外の疾患）		1	1		2
F40　恐怖性不安障害					
F41　他の不安障害		1	6		7
F42　強迫性障害					
F43　重度ｽﾄﾚｽ反応及び適応障害					
F44　解離性（転換性）障害					
F45　身体表現性障害		2	4		6
F4　（上記以外の疾患）					
F50　摂食障害		2	1		3
F51　非器質性睡眠障害					
F5　（上記以外の疾患）					
F6　成人のﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨｰ及び行動の障害		3	3		6
F7　精神遅滞			2		2
F84　広汎性発達障害		1			1
F8　（上記以外の疾患）					
F90　多動性障害					
F9　（上記以外の疾患）					
G40　てんかん		1	1		2
その他		3	1		4
合　計		121	130		251
構成比％		48.2	51.8		100.0

２０１５年度

（単位：人）

病　名	措置入院	医療保護入院	任意入院	その他	合　計
F00　アルツハイマー型認知症		40	7		47
F01　血管性認知症		6	4		10
F02　その他の疾患による認知症		3	1		4
F05　せん妄		2			2
F0　（上記以外の疾患）					
F10　アルコール使用による障害		4			4
F1　（上記以外の疾患）		1	1		2
F20　統合失調症	1	42	42		85
F2　（上記以外の疾患）		3	4		7
F30　躁病エピソード		1			1
F31　双極性感情障害		11	10		21
F32　うつ病エピソード		9	19		28
F33　反復性うつ病性障害		1	2		3
F3　（上記以外の疾患）			1		1
F40　恐怖性不安障害					
F41　他の不安障害			4		4
F42　強迫性障害		1			1
F43　重度ｽﾄﾚｽ反応及び適応障害		1			1
F44　解離性（転換性）障害			2		2
F45　身体表現性障害					
F4　（上記以外の疾患）					
F50　摂食障害					
F51　非器質性睡眠障害					
F5　（上記以外の疾患）					
F6　成人のﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨｰ及び行動の障害		2	1		3
F7　精神遅滞		2	2		4
F84　広汎性発達障害					
F8　（上記以外の疾患）					
F90　多動性障害					
F9　（上記以外の疾患）					
G40　てんかん			2		2
その他		1			1
合　計	1	130	102		233
構成比％	0.4	55.8	43.8		100.0

２０１６年度

（単位：人）

病　名	措置入院	医療保護入院	任意入院	その他	合　計
F00　アルツハイマー型認知症		33	4		37
F01　血管性認知症		13	1		14
F02　その他の疾患による認知症		2	1		3
F05　せん妄		5	1		6
F0　（上記以外の疾患）		5	1		6
F10　アルコール使用による障害		4	2		6
F1　（上記以外の疾患）		2			2
F20　統合失調症	1	41	25		67
F2　（上記以外の疾患）		1			1
F30　躁病エピソード					
F31　双極性感情障害		9	4		13
F32　うつ病エピソード		7	9		16
F33　反復性うつ病性障害			2		2
F3　（上記以外の疾患）		1			1
F40　恐怖性不安障害					
F41　他の不安障害		3	5		8
F42　強迫性障害					
F43　重度ｽﾄﾚｽ反応及び適応障害		1			1
F44　解離性（転換性）障害					
F45　身体表現性障害		1	1		2
F4　（上記以外の疾患）					
F50　摂食障害		1			1
F51　非器質性睡眠障害					
F5　（上記以外の疾患）					
F6　成人のﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨｰ及び行動の障害		3			3
F7　精神遅滞		3	2		5
F84　広汎性発達障害		2			2
F8　（上記以外の疾患）					
F90　多動性障害					
F9　（上記以外の疾患）					
G40　てんかん		4	1		5
その他					
合　計	1	141	59		201
構成比％	0.5	70.1	29.4		100.0

２－２ 新入院患者の入院形態別人数と構成割合の年次推移

	2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度	
	人数	割合（%）	人数	割合（%）	人数	割合（%）	人数	割合（%）	人数	割合（%）
措置入院			4	1.6%			1	0.4%	1	0.5%
医療保護入院	100	42.0%	134	52.8%	121	48.2%	130	55.8%	141	70.1%
任意入院	138	58.0%	116	45.7%	130	51.8%	102	43.8%	59	29.4%
その他										
合計	238	100.0%	254	100.0%	251	100.0%	233	100.0%	201	100.0%

３－１　新入院患者の病名別・年齢構成

2012年度

（単位:人）

病　名 (ICD-10)	全体								
	～19才	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60～69才	70才～	合計	占有率(%)
F00　アルツハイマー型認知症						2	32	34	14.3
F01　血管性認知症				1		2	5	8	3.4
F02　その他の疾患による認知症							9	9	3.8
F05　せん妄					1	2	9	12	5.0
F0　（上記以外の疾患）					1	1	2	4	1.7
F10　アルコール使用による障害				3	3	3	1	10	4.2
F1　（上記以外の疾患）		1	4	1				6	2.5
F20　統合失調症		5	18	16	21	16	9	85	35.7
F2　（上記以外の疾患）						1	2	3	1.3
F30　躁病エピソード									
F31　双極性感情障害			1	4	5	14	2	26	10.9
F32　うつ病エピソード				3	1	3	4	11	4.6
F33　反復性うつ病性障害						2		2	0.8
F3　（上記以外の疾患）						1	1	2	0.8
F40　恐怖性不安障害									
F41　他の不安障害			1			3	1	5	2.1
F42　強迫性障害							1	1	0.4
F43　重度ｽﾄﾚｽ反応及び適応障害	1	1		1				3	1.3
F44　解離性(転換性)障害									
F45　身体表現性障害					1		1	2	0.8
F4　（上記以外の疾患）									
F50　摂食障害				1				1	0.4
F51　非器質性睡眠障害									
F5　（上記以外の疾患）									
F6　成人のﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨｰ及び行動の障害			1					1	0.4
F7　精神遅滞			1	1	1	1		4	1.7
F84　広汎性発達障害		1						1	0.4
F8　（上記以外の疾患）									
F90　多動性障害									
F9　（上記以外の疾患）						1		1	0.4
G40　てんかん		1		2		2	1	6	2.5
その他							1	1	0.4
合　計	1	9	26	33	34	54	81	238	100.0
構成比%	0.4	3.8	10.9	13.9	14.3	22.7	34.0	100.0	

2013年度

（単位：人）

病　名 (ICD-10)	全体								
	～19才	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60～69才	70才～	合計	占有率(%)
F00　アルツハイマー型認知症						1	57	58	22.8
F01　血管性認知症				7	1	4	1	13	5.1
F02　その他の疾患による認知症					2		4	6	2.4
F05　せん妄							2	2	0.8
F0　（上記以外の疾患）						2	6	8	3.1
F10　アルコール使用による障害			3	2	2	3	3	13	5.1
F1　（上記以外の疾患）									
F20　統合失調症	1	12	12	16	13	17	8	79	31.1
F2　（上記以外の疾患）									
F30　躁病エピソード									
F31　双極性感情障害		1	1	1	3	4	1	11	4.3
F32　うつ病エピソード		1		1		1	1	4	1.6
F33　反復性うつ病性障害									
F3　（上記以外の疾患）		2		4	6	8	8	28	11.0
F40　恐怖性不安障害									
F41　他の不安障害				1	1			2	0.8
F42　強迫性障害									
F43　重度ストレス反応及び適応障害			1					1	0.4
F44　解離性(転換性)障害									
F45　身体表現性障害									
F4　（上記以外の疾患）									
F50　摂食障害		2						2	0.8
F51　非器質性睡眠障害									
F5　（上記以外の疾患）									
F6　成人のパーソナリティー及び行動の障害				1			1	2	0.8
F7　精神遅滞	1	3	2	1		1		8	3.1
F84　広汎性発達障害									
F8　（上記以外の疾患）									
F90　多動性障害									
F9　（上記以外の疾患）									
G40　てんかん		1		3			2	6	2.4
その他		4	3	2			2	11	4.3
合　計	2	26	22	39	28	41	96	254	100.0
構成比%	0.8	10.2	8.7	15.4	11.0	16.1	37.8	100.0	

2014年度

（単位:人）

病　名 (ICD-10)	全体								
	～19才	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60～69才	70才～	合計	占有率(%)
F00　アルツハイマー型認知症						3	44	47	18.7
F01　血管性認知症				3			8	11	4.4
F02　その他の疾患による認知症						2	10	12	4.8
F05　せん妄							2	2	0.8
F0　（上記以外の疾患）									
F10　アルコール使用による障害				1	3	7	3	14	5.6
F1　（上記以外の疾患）				2	1			3	1.2
F20　統合失調症		5	11	20	21	26	5	88	35.1
F2　（上記以外の疾患）						1	3	4	1.6
F30　躁病エピソード									
F31　双極性感情障害			3		4	4	7	18	7.2
F32　うつ病エピソード		1	2	4	4	1	5	17	6.8
F33　反復性うつ病性障害						2		2	0.8
F3　（上記以外の疾患）		1	1					2	0.8
F40　恐怖性不安障害									
F41　他の不安障害		1	1	1	2		2	7	2.8
F42　強迫性障害									
F43　重度ｽﾄﾚｽ反応及び適応障害									
F44　解離性(転換性)障害									
F45　身体表現性障害	1					2	3	6	2.4
F4　（上記以外の疾患）									
F50　摂食障害	1			2				3	1.2
F51　非器質性睡眠障害									
F5　（上記以外の疾患）									
F6　成人のﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨｰ及び行動の障害		4	1		1			6	2.4
F7　精神遅滞				2				2	0.8
F84　広汎性発達障害		1						1	0.4
F8　（上記以外の疾患）									
F90　多動性障害									
F9　（上記以外の疾患）									
G40　てんかん						1	1	2	0.8
その他						3	1	4	1.6
合　計	2	13	19	35	36	52	94	251	100.0
構成比%	0.8	5.2	7.6	13.9	14.3	20.7	37.5	100.0	

2015年度

（単位:人）

病　名 (ICD-10)	全体								
	～19才	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60～69才	70才～	合計	占有率(%)
F00　アルツハイマー型認知症						2	45	47	20.2
F01　血管性認知症				2		2	6	10	4.3
F02　その他の疾患による認知症							4	4	1.7
F05　せん妄						1	1	2	0.9
F0　（上記以外の疾患）									
F10　アルコール使用による障害				1	1	2		4	1.7
F1　（上記以外の疾患）		1		1				2	0.9
F20　統合失調症	2	6	11	13	19	25	9	85	36.5
F2　（上記以外の疾患）					1	1	6	8	3.4
F30　躁病エピソード						1		1	0.4
F31　双極性感情障害	1	1	1	2	4	7	5	21	9.0
F32　うつ病エピソード			4	3	5	7	9	28	12.0
F33　反復性うつ病性障害					1	2		3	1.3
F3　（上記以外の疾患）							1	1	0.4
F40　恐怖性不安障害									
F41　他の不安障害		1	1			1	1	4	1.7
F42　強迫性障害							1	1	0.4
F43　重度ｽﾄﾚｽ反応及び適応障害				1				1	0.4
F44　解離性(転換性)障害				1			1	2	0.9
F45　身体表現性障害									
F4　（上記以外の疾患）									
F50　摂食障害									
F51　非器質性睡眠障害									
F5　（上記以外の疾患）									
F6　成人のﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨｰ及び行動の障害		2						2	0.9
F7　精神遅滞		1		2	1			4	1.7
F84　広汎性発達障害									
F8　（上記以外の疾患）									
F90　多動性障害									
F9　（上記以外の疾患）									
G40　てんかん				2				2	0.9
その他						1		1	0.4
合　計	3	12	17	28	32	52	89	233	100.0
構成比%	1.3	5.2	7.3	12.0	13.7	22.3	38.2	100.0	

2016年度

（単位:人）

病　名 (ICD-10)	全体								
	～19才	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60～69才	70才～	合計	占有率(%)
F00　アルツハイマー型認知症						3	34	37	18.4
F01　血管性認知症				1	1	2	10	14	7.0
F02　その他の疾患による認知症							3	3	1.5
F05　せん妄				1		1	4	6	3.0
F0　（上記以外の疾患）						4	2	6	3.0
F10　アルコール使用による障害						4	2	6	3.0
F1　（上記以外の疾患）				2				2	1.0
F20　統合失調症			15	15	15	11	11	67	33.3
F2　（上記以外の疾患）						1		1	0.5
F30　躁病エピソード									
F31　双極性感情障害		2		1	2	2	6	13	6.5
F32　うつ病エピソード		1	2	2	2	4	5	16	8.0
F33　反復性うつ病性障害						1	1	2	1.0
F3　（上記以外の疾患）				1				1	0.5
F40　恐怖性不安障害									
F41　他の不安障害		4		1		1	2	8	4.0
F42　強迫性障害									
F43　重度ｽﾄﾚｽ反応及び適応障害			1					1	0.5
F44　解離性(転換性)障害									
F45　身体表現性障害							2	2	1.0
F4　（上記以外の疾患）									
F50　摂食障害		1						1	0.5
F51　非器質性睡眠障害									
F5　（上記以外の疾患）									
F6　成人のﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨｰ及び行動の障害		3						3	1.5
F7　精神遅滞		1		3		1		5	2.5
F84　広汎性発達障害		2						2	1.0
F8　（上記以外の疾患）									
F90　多動性障害									
F9　（上記以外の疾患）									
G40　てんかん		2			1	1	1	5	2.5
その他									
合　計		16	18	27	21	36	83	201	100.0
構成比%		8.0	9.0	13.4	10.4	17.9	41.3	100.0	

３－２　新入院患者の病名別人数と構成割合の年次推移

		２０１２年度		２０１３年度		２０１４年度		２０１５年度		２０１６年度	
		人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
F00	アルツハイマー型認知症	34	14.3	58	22.8	47	18.7	47	20.2	37	18.4
F01	血管性認知症	8	3.4	13	5.1	11	4.4	10	4.3	14	7.0
F02	その他の疾患による認知症	9	3.8	6	2.4	12	4.8	4	1.7	3	1.5
F05	せん妄	12	5.0	2	0.8	2	0.8	2	0.9	6	3.0
F0	（上記以外の疾患）	4	1.7	8	3.1					6	3.0
F10	アルコール使用による障害	10	4.2	13	5.1	14	5.6	4	1.7	6	3.0
F1	（上記以外の疾患）	6	2.5			3	1.2	2	0.9	2	1.0
F20	統合失調症	85	35.7	79	31.1	88	35.1	85	36.5	67	33.3
F2	（上記以外の疾患）	3	1.3			4	1.6	8	3.4	1	0.5
F30	躁病エピソード							1	0.4		
F31	双極性感情障害	26	10.9	11	4.3	18	7.2	21	9.0	13	6.5
F32	うつ病エピソード	11	4.6	4	1.6	17	6.8	28	12.0	16	8.0
F33	反復性うつ病性障害	2	0.8			2	0.8	3	1.3	2	1.0
F3	（上記以外の疾患）	2	0.8	28	11.0	2	0.8	1	0.4	1	0.5
F40	恐怖性不安障害										
F41	他の不安障害	5	2.1	2	0.8	7	2.8	4	1.7	8	4.0
F42	強迫性障害	1	0.4					1	0.4		
F43	重度ストレス反応及び適応障害	3	1.3	1	0.4			1	0.4	1	0.5
F44	解離性(転換性)障害							2	0.9		
F45	身体表現性障害	2	0.8			6	2.4			2	1.0
F4	（上記以外の疾患）										
F50	摂食障害	1	0.4	2	0.8	3	1.2			1	0.5
F51	非器質性睡眠障害										
F5	（上記以外の疾患）										
F6	成人のパーソナリティー及び行動の障害	1	0.4	2	0.8	6	2.4	2	0.9	3	1.5
F7	精神遅滞	4	1.7	8	3.1	2	0.8	4	1.7	5	2.5
F84	広汎性発達障害	1	0.4			1	0.4			2	1.0
F8	（上記以外の疾患）										
F90	多動性障害										
F9	（上記以外の疾患）	1	0.4								
G40	てんかん	6	2.5	6	2.4	2	0.8	2	0.9	5	2.5
その他		1	0.4	11	4.3	4	1.6	1	0.4		
合　計		238	100.0	254	100.0	251	100.0	233	100.0	201	100.0

４　新入院患者の年齢階層別人数及び割合の年次推移

年度 / 年齢階層	2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
～１９才	1	0.4	2	0.8	2	0.8	3	1.3	0	0.0
２０才～２９才	9	3.8	26	10.2	13	5.2	12	5.2	16	8.0
３０才～３９才	26	10.9	22	8.7	19	7.6	17	7.3	18	9.0
４０才～４９才	33	13.9	39	15.4	35	13.9	28	12.0	27	13.4
５０才～５９才	34	14.3	28	11.0	36	14.3	32	13.7	21	10.4
６０才～６９才	54	22.7	41	16.1	52	20.7	52	22.3	36	17.9
７０才～	81	34.0	96	37.8	94	37.5	89	38.2	83	41.3
合　　計	238	100.0	254	100.0	251	100.0	233	100.0	201	100.0

５　入院患者の在院期間別人数及び割合（６月３０日現在）

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
１ヶ月未満	17	27	30	16	11
（%）	15.5	23.5	27.3	15.4	14.5
１ヶ月～３ヶ月未満	21	19	18	19	18
（%）	19.1	16.5	16.4	18.3	23.7
３ヶ月～６ヶ月未満	13	6	14	18	12
（%）	11.8	5.2	12.7	17.3	15.8
６ヶ月～１年未満	17	15	12	17	11
（%）	15.5	13.0	10.9	16.3	14.5
１年～５年未満	19	26	18	23	15
（%）	17.3	22.6	16.4	22.1	19.7
５年～１０年未満	13	12	9	6	2
（%）	11.8	10.4	8.2	5.8	2.6
１０年～２０年未満	4	4	3	1	4
（%）	3.6	3.5	2.7	1.0	5.3
２０年以上	6	6	6	4	3
（%）	5.5	5.2	5.5	3.8	3.9
合　　計	110	115	110	104	76
（%）	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

１年未満	68	67	74	70	52
（%）	61.8	58.3	67.3	67.3	68.4
１年以上	42	48	36	34	24
（%）	38.2	41.7	32.7	32.7	31.6

（再掲）５年以上	23	22	18	11	9
（%）	20.9	19.1	16.4	10.6	11.8

６－１　退院患者の退院先別入院期間別人数及び割合

２０１２年度

区分＼入院期間	１月未満	１月～３月	３月～６月	６月～１年	１年～３年	３年～５年	５年以上	計	構成比（%）
単身生活			1					1	0.4
家族と同居	42	69	20	13	5			149	60.8
老人施設等	6	9	5	2	1			23	9.4
転院	19	13	5	3	6		2	48	19.6
共同住居	1	7	1	4			1	14	5.7
死亡	3	2	3	1	1			10	4.1
警察								0	0.0
その他								0	0.0
計	71	100	35	23	13	0	3	245	100.0
（%）	29.0	40.8	14.3	9.4	5.3	0.0	1.2	100.0	

２０１３年度

区分＼入院期間	１月未満	１月～３月	３月～６月	６月～１年	１年～３年	３年～５年	５年以上	計	構成比（%）
単身生活								0	0.0
家族と同居	25	73	29	18	5			150	58.6
老人施設等	4	24	11	8	2	2		51	19.9
転院	12	11	5	2	4		4	38	14.8
共同住居		4	3	2	3	1		13	5.1
死亡	1	1		1	1			4	1.6
警察								0	0.0
その他								0	0.0
計	42	113	48	31	15	3	4	256	100.0
（%）	16.4	44.1	18.8	12.1	5.9	1.2	1.6	100.0	

２０１４年度

区分＼入院期間	１月未満	１月～３月	３月～６月	６月～１年	１年～３年	３年～５年	５年以上	計	構成比（%）
単身生活	5	1						6	2.4
家族と同居	28	56	29	5	4			122	49.8
老人施設等	4	15	2	2	1			24	9.8
転院	17	13	9	7	4		4	54	22.0
共同住居	4	10	10	7	3		2	36	14.7
死亡				1			2	3	1.2
警察								0	0.0
その他								0	0.0
計	58	95	50	22	12	0	8	245	100.0
（%）	23.7	38.8	20.4	9.0	4.9	0.0	3.3	100.0	

２０１５年度

区分＼入院期間	１月未満	１月～３月	３月～６月	６月～１年	１年～３年	３年～５年	５年以上	計	構成比（%）
単身生活		2	1					3	1.1
家族と同居	23	61	45	12	1			142	54.2
老人施設等	1	13	10	5	2	2		33	12.6
転院	9	6	7	3	4	2	2	33	12.6
共同住居	4	21	8	6	8	2		49	18.7
死亡	1	1						2	0.8
警察								0	0.0
その他								0	0.0
計	38	104	71	26	15	6	2	262	100.0
(%)	14.5	39.7	27.1	9.9	5.7	2.3	0.8	100.0	

２０１６年度

区分＼入院期間	１月未満	１月～３月	３月～６月	６月～１年	１年～３年	３年～５年	５年以上	計	構成比（%）
単身生活								0	0.0
家族と同居	25	52	16	1	1			95	47.0
老人施設等	2	2	3	3	1			11	5.4
転院	14	12	9	4	7	1	1	48	23.8
共同住居	7	21	6	4	3		1	42	20.8
死亡		3		2	1			6	3.0
警察								0	0.0
その他								0	0.0
計	48	90	34	14	13	1	2	202	100.0
(%)	23.8	44.6	16.8	6.9	6.4	0.5	1.0	100.0	

６－２　退院患者の退院先別人数と構成割合の年次推移

区分＼年度	2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
単身生活	1	0.4			6	2.4	3	1.1		
家族と同居	149	60.8	150	58.6	122	49.8	142	54.2	95	47.0
老人施設等	23	9.4	51	19.9	24	9.8	33	12.6	11	5.4
転院	48	19.6	38	14.8	54	22.0	33	12.6	48	23.8
共同住居	14	5.7	13	5.1	36	14.7	49	18.7	42	20.8
死亡	10	4.1	4	1.6	3	1.2	2	0.8	6	3.0
警察										
その他										
計	245	100.0	256	100.0	245	100.0	262	100.0	202	100.0

7　入院患者の居住地域別人数及び割合

		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度	
		患者数	(%)	患者数	(%)	患者数	(%)	患者数	(%)	患者数	(%)
北網圏	網走市	663	43.2	690	46.3	645	44.9	638	47.4	515	47.1
	北見市	95	6.2	101	6.8	165	11.5	118	8.8	65	5.9
	(旧)北見市	65	4.2	69	4.6	100	7.0	49	3.6	52	4.8
	端野町										
	留辺藥町	23	1.5	24	1.6	24	1.7	24	1.8		
	常呂町	7	0.5	8	0.5	41	2.9	45	3.3	13	1.2
	大空町	82	5.3	102	6.8	85	5.9	47	3.5	37	3.4
	東藻琴村	27	1.8	9	0.6	18	1.3	6	0.4		
	女満別町	55	3.6	93	6.2	67	4.7	41	3.0	37	3.4
	美幌町	158	10.3	117	7.8	83	5.8	102	7.6	96	8.8
	津別町	10	0.7	10	0.7	2	0.1	13	1.0	13	1.2
	斜里町	185	12.1	149	10.0	143	9.9	96	7.1	76	6.9
	清里町	95	6.2	87	5.8	79	5.5	79	5.9	63	5.8
	小清水町	33	2.2	41	2.7	40	2.8	67	5.0	25	2.3
	訓子府町	5	0.3	7	0.5	4	0.3	2	0.1		
	置戸町										
遠紋圏	紋別市	26	1.7	24	1.6	22	1.5	52	3.9	51	4.7
	佐呂間町	11	0.7	9	0.6	17	1.2	16	1.2	15	1.4
	遠軽町	34	2.2	44	3.0	47	3.3	42	3.1	54	4.9
	生田原町					12	0.8	12	0.9	12	1.1
	(旧)遠軽町	34	2.2	44	3.0	35	2.4	27	2.0	37	3.4
	丸瀬布町							3	0.2	5	0.5
	白滝村										
	湧別町	20	1.3	21	1.4	34	2.4	27	2.0	34	3.1
	上湧別町					6	0.4	2	0.1	10	0.9
	(旧)湧別町	20	1.3	21	1.4	28	1.9	25	1.9	24	2.2
	滝上町	25	1.6	13	0.9	15	1.0	15	1.1	12	1.1
	興部町	12	0.8	7	0.5	1	0.1	3	0.2	5	0.5
	西興部町			3	0.2						
	雄武町	18	1.2	14	0.9	10	0.7				
その他	他道内	52	3.4	45	3.0	46	3.2	23	1.7	33	3.0
	道外	9	0.6	7	0.5			7	0.5		
	その他										
合計		1,533	100.0	1,491	100.0	1,438	100.0	1,347	100.0	1,094	100.0

8　入院患者の経路別人数及び割合

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
本人自らの希望	55	72	60	68	63
（%）	23.0	22.8	21.3	20.2	19.7
家族・同僚等が同伴	99	114	116	110	116
（%）	41.4	36.1	41.1	32.7	36.3
保健所・福祉事務所の紹介	1	1	0	1	0
（%）	0.4	0.3	0.0	0.3	0.0
他の精神科病院等の紹介	3	3	3	2	2
（%）	1.3	0.9	1.1	0.6	0.6
精神科以外の病院等の紹介	40	61	31	51	59
（%）	16.7	19.3	11.0	15.2	18.4
警察・消防署等の紹介	11	26	12	20	21
（%）	4.6	8.2	4.3	6.0	6.6
その他	30	39	60	84	59
（%）	12.6	12.3	21.3	25.0	18.4
計	239	316	282	336	320
（%）	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※ 経路別人数は複数計上あり

２０１４年度

同伴者等 / 入院経路	本人	家族			施設職員		保健所警察等	計
			施設職員	保健所警察等		保健所警察等		
自宅	60	116	4	8	7			195
一般病院	11	8	3	1	8			31
精神科病院	1	1			1			3
施設	4	10	8		9			31
ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ	5	4	5		2			16
その他　（旅行中・警察等）	1	1		1			3	6
計	82	140	20	10	27		3	282

２０１５年度

同伴者等 / 入院経路	本人	家族			施設職員		保健所警察等	計
			施設職員	保健所警察等		保健所警察等		
自宅	68	110	8	3	7		6	202
一般病院	15	27	4	1	3		1	51
精神科病院		1	1					2
施設	10	6	3	2	22	1		44
ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ	7	5	1		8	1		22
その他　（旅行中・警察等）	5	2	1	1	1		5	15
計	105	151	18	7	41	2	12	336

２０１６年度

同伴者等 / 入院経路	本人	家族			施設職員		保健所警察等	計
			施設職員	保健所警察等		保健所警察等		
自宅	63	89	0	5	3	0	7	167
一般病院	22	31	2	0	4	0	0	59
精神科病院	0	2	0	0	0	0	0	2
施設	13	12	6	0	17	0	0	48
ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ	5	4	1	0	8	0	1	19
その他　（旅行中・警察等）	8	7	0	2	2	1	5	25
計	111	145	9	7	34	1	13	320

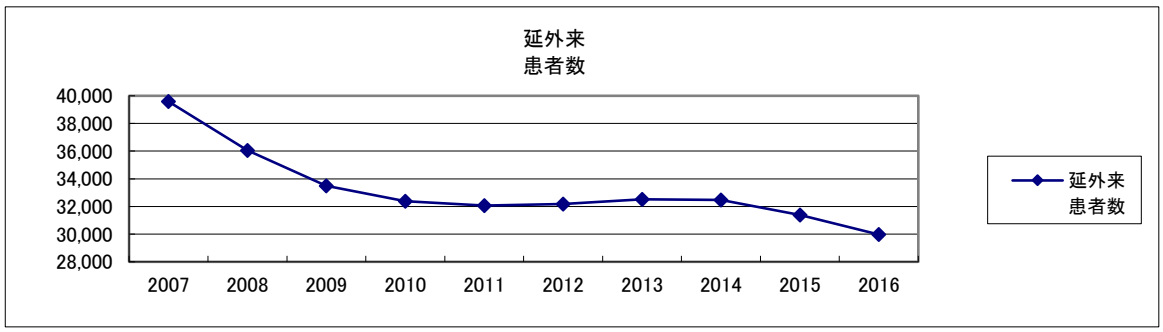
9-1　外来患者数の推移

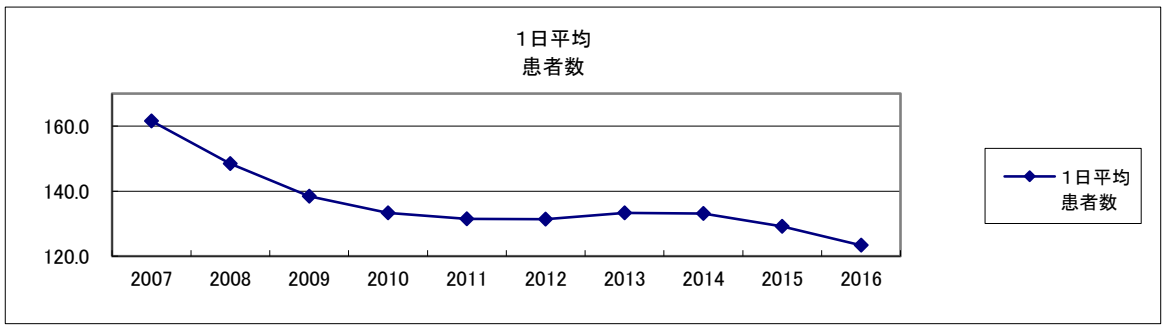
	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
延べ外来患者数	32,188	32,515	32,480	31,392	29,972
年間実患者数	22,189	21,569	21,267	21,024	20,347
新規外来患者数	730	670	870	819	685
1日平均患者数	131.4	133.3	133.1	129.2	123.3
休日診療患者数	14	20	25	12	5
時間外診療患者数	14	12	5	6	4
深夜診療患者数	8	9	7	6	3

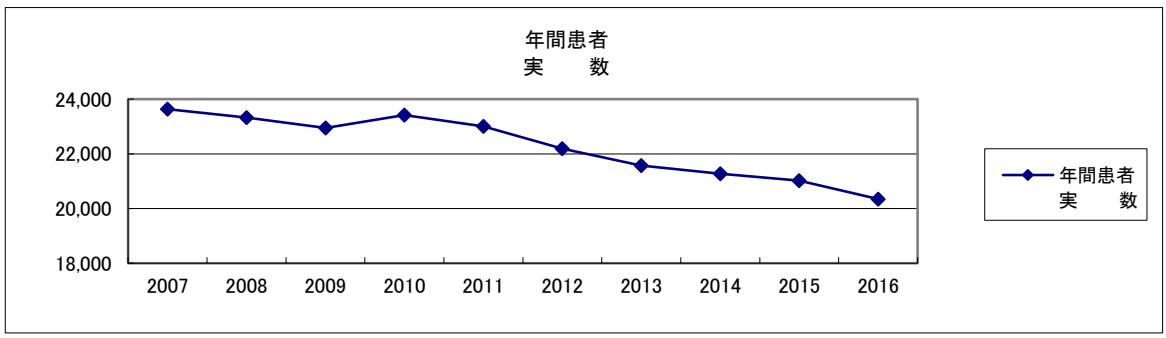
９－２　外来患者数の推移（2007年度～2016年度）

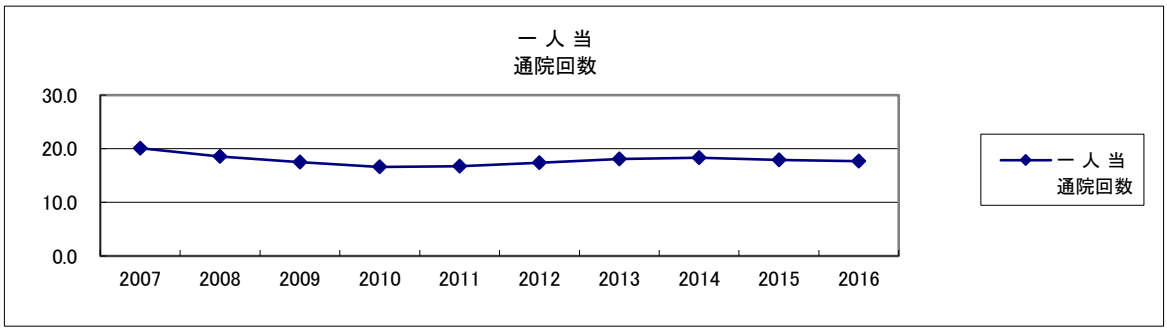
（単位:人）

区分	延外来 患者数	新外来 患者数	1日平均 患者数	年間患者 実　　数	一 人 当 通院回数
2007	39,584	1,008	161.6	23,632	20.1
2008	36,065	955	148.4	23,324	18.6
2009	33,488	834	138.4	22,950	17.5
2010	32,390	843	133.3	23,413	16.6
2011	32,073	758	131.4	23,001	16.7
2012	32,188	730	131.4	22,189	17.4
2013	32,515	670	133.3	21,569	18.1
2014	32,480	870	133.1	21,267	18.3
2015	31,392	819	129.2	21,024	17.9
2016	29,972	685	123.3	20,347	17.7









１０　初診外来患者の病名別分類

病名 (ICD-10)	2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
Ｆ０	103	14.1	118	17.6	166	19.1	141	17.2	121	17.7
Ｆ１	13	1.8	17	2.5	10	1.1	11	1.3	6	0.9
Ｆ２	50	6.8	47	7.0	39	4.5	46	5.6	24	3.5
Ｆ３	139	19.0	140	20.9	172	19.8	209	25.5	156	22.8
Ｆ４	275	37.7	256	38.2	251	28.9	206	25.2	207	30.2
Ｆ５	33	4.5	20	3.0	74	8.5	55	6.7	28	4.1
Ｆ６	4	0.5	1	0.1	1	0.1	4	0.5		
Ｆ７	50	6.8	31	4.6	49	5.6	49	6.0	45	6.6
Ｆ８	7	1.0	7	1.0	7	0.8	9	1.1	21	3.1
Ｆ９			1	0.1	6	0.7	5	0.6	5	0.7
Ｇ	12	1.6	5	0.7	6	0.7	2	0.2	4	0.6
その他	44	6.0	27	4.0	89	10.2	82	10.0	68	9.9
合計	730	100.0	670	100.0	870	100.0	819	100.0	685	100.0

F0 ： 症状性を含む器質性精神障害

F1 ： 精神作用物質使用による精神及び行動の障害

F2 ： 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害

F3 ： 気分（感情）障害

F4 ： 神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害

F5 ： 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群

F6 ： 成人の人格及び行動の障害

F7 ： 知的障害〈精神遅滞〉

F8 ： 心理的発達の障害

F9 ： 小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害

G ： 神経系の疾患

その他 ： 精神によらない内科的、外科的疾患

１１　外来患者の居住地域別人数及び割合

		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度	
		患者数	(%)	患者数	(%)	患者数	(%)	患者数	(%)	患者数	(%)
北網圏	網走市	10,852	48.9	10,894	50.5	10,978	51.6	10,943	52.1	10,505	51.6
	北見市	1,377	6.2	1,432	6.6	1,285	6.0	1,228	5.8	1,336	6.6
	（旧）北見市	985	4.4	1,029	4.8	918	4.3	866	4.1	967	4.8
	端野町	32	0.1	48	0.2	37	0.2	38	0.2	40	0.2
	留辺藥町	3	0.0	9	0.0		0.0	4	0.0	14	0.1
	常呂町	357	1.6	346	1.6	330	1.6	320	1.5	315	1.5
	大空町	1,436	6.5	1,390	6.4	1,326	6.2	1,326	6.3	1,237	6.1
	東藻琴村	428	1.9	485	2.2	405	1.9	375	1.8	346	1.7
	女満別町	1,008	4.5	905	4.2	921	4.3	951	4.5	891	4.4
	美幌町	1,659	7.5	1,574	7.3	1,425	6.7	1,358	6.5	1,326	6.5
	津別町	339	1.5	292	1.4	304	1.4	289	1.4	278	1.4
	斜里町	3,377	15.2	3,194	14.8	3,131	14.7	3,218	15.3	3,055	15.0
	清里町	986	4.4	869	4.0	832	3.9	794	3.8	715	3.5
	小清水町	1,092	4.9	961	4.5	987	4.6	941	4.5	906	4.5
	訓子府町	47	0.2	44	0.2	55	0.3	56	0.3	56	0.3
	置戸町	9	0.0	10	0.0	0	0.0		0.0	7	0.0
遠紋圏	紋別市	124	0.6	111	0.5	115	0.5	97	0.5	102	0.5
	佐呂間町	228	1.0	180	0.8	143	0.7	104	0.5	109	0.5
	遠軽町	76	0.3	54	0.3	73	0.3	93	0.4	95	0.5
	生田原町		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
	（旧）遠軽町	76	0.3	49	0.2	61	0.3	81	0.4	84	0.4
	丸瀬布町		0.0	5	0.0	12	0.1	12	0.1	11	0.1
	白滝村		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
	湧別町	125	0.6	119	0.6	110	0.5	97	0.5	111	0.5
	上湧別町	35	0.2	40	0.2	29	0.1	19	0.1	21	0.1
	（旧）湧別町	90	0.4	79	0.4	81	0.4	78	0.4	90	0.4
	滝上町	14	0.1	22	0.1	23	0.1	27	0.1	35	0.2
	興部町	46	0.2	44	0.2	45	0.2	52	0.2	41	0.2
	西興部町		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
	雄武町	3	0.0	3	0.0	12	0.1	8	0.0		0.0
その他	他道内	270	1.2	304	1.4	298	1.4	250	1.2	263	1.3
	道外	36	0.2	22	0.1	27	0.1	20	0.1	7	0.0
	その他	93	0.4	50	0.2	98	0.5	123	0.6	163	0.8
合計		22,189	100.0	21,569	100.0	21,267	100.0	21,024	100.0	20,347	100.0

１２　診療時間以外の外来診療件数内訳

			2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
初診		時間外	3	12	5	6	1
		休　日	1	5	13	3	2
		深　夜	1	6	2	1	2
		計	5	23	20	10	5
再診	再診	時間外	2				3
		休　日	10	11	12	7	2
		深　夜	6	3	3	4	1
		計	18	14	15	11	6
	電話再診	時間外	9				
		休　日	3	4		2	1
		深　夜	1		2	1	
		計	13	4	2	3	1
	計	時間外	11				3
		休　日	13	15	12	9	3
		深　夜	7	3	5	5	1
		計	31	18	17	14	7
合計		時間外	14	12	5	6	4
		休　日	14	20	25	12	5
		深　夜	8	9	7	6	3
		計	36	41	37	24	12

１３－１　精神科救急医療システム実績

年　　度		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
(システム実施日数)		(183)	(183)	(183)	(176)	(183)
システム取扱件数		29	15	13	22	37
	電話相談	10			9	25
	外　来	13	5	7	5	5
	入　院	6	10	6	8	7

１３－２　救急車による患者搬入件数の年次推移

年　　度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
総　　数	25	37	47	36	25
時間外	13	21	29	24	9

第４　経営概況

１　決算状況

（単位：千円、％）

款　項　目	2014年度	2015年度	2016年度	14年度対比	15年度対比
	A	B	C	C/A	C/B
病院事業収益	857,130	807,774	932,630	108.8	115.4
医業収益	799,444	775,549	678,951	84.9	87.5
うち入院収益	546,173	526,321	427,857	78.3	81.2
うち外来収益	243,937	237,701	241,259	98.9	101.4
うちその他医業収益	9,334	11,527	9,835	105.3	85.3
医業外収益	55,177	29,406	252,509	457.6	858.6
特別利益	2,509	2,819	1,170	46.6	41.5
病院事業費用	1,542,097	1,306,667	1,655,335	107.3	126.6
医業費用	1,456,973	1,275,784	1,601,189	109.8	125.5
給与費	1,015,976	873,025	855,332	84.1	97.9
うち退職給与金	210,973	140,894	142,348	67.4	101.0
材料費	108,691	96,088	92,101	84.7	95.8
うち医薬材料費	84,104	95,364	91,488	108.7	95.9
経費	278,977	280,364	319,580	114.5	113.9
うち旅費	2,435	2,266	1,952	80.1	86.1
うち需用費	45,030	41,722	45,408	100.8	108.8
うち修繕費	7,307	11,671	3,732	51.0	31.9
うち委託料	186,264	185,714	214,499	115.1	115.4
うち使用料賃借料	22,087	18,709	18,891	85.5	100.9
うち役務費	6,034	6,413	31,356	519.6	488.9
減価償却費	24,820	22,365	229,737	925.6	1,027.2
資産減耗費	25,517	708	101,401	397.3	14,322.1
研究研修費	2,992	3,234	3,038	101.5	93.9
医業外費用	28,620	28,205	53,168	185.7	188.5
特別損失	56,504	2,678	978	1.7	36.5
損益	-684,967	-498,893	-722,705	105.5	144.8
外来収益/医業収益(%)	30.5	30.6	35.5	116.3	116.0
医業費用/医業収益(%)	182.2	164.5	235.8	129.4	143.3
給与費 / 医業収益(%)	127.0	112.5	125.9	99.1	111.9
医業収益 － 医業費用	-657,529	-500,235	-922,238	140.2	184.3

２　経営分析調

区分 / 項目	算出基礎	2014年度	2015年度	2016年度
病床利用率（%）	年延入院患者数 ×100 年延許可病床数	70.0	64.8	67.5
入院外来患者比率（%）	年延外来患者数 ×100 年延入院患者数	87.7	91.6	106.7
患者１人１日当たり入院収益（円）	入院収益 年延入院患者数	14,740	15,352	15,233
患者１人１日当たり外来収益（円）	外来収益 年延外来患者数	7,510	7,572	8,049
患者１人１日当たり収益（円）	入院・外来収益 年延入院外来患者数	11,363	11,633	11,525
投薬使用効率（%）	投薬収入 ×100 投薬薬品費	127.8	127.8	127.7
注射薬使用効率（%）	注射収入 ×100 注射薬品費	115.8	114.7	115.6
職員給与費率（%）	職員給与費 ×100 医業収益	127.1	112.6	126.0
材料費率（%）	材料費 ×100 医業収益	13.6	12.4	13.6
経常収支比率（%）	経常収益 ×100 経常費用	55.6	61.8	56.3
医業収支比率（%）	医業収益 ×100 医業費用	54.9	60.8	42.4

3　診療行為別件数

区分＼年度		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
初診		781	727	892	879	748
投薬	入院	169,972	166,509	173,073	176,510	126,012
	外来	4,309	4,240	3,647	4,448	4,731
	合計	174,281	170,749	176,720	180,958	130,743
画像診断	入院	8,259	9,921	11,267	12,307	18,228
	外来	3,941	5,265	8,759	7,538	14,346
	合計	12,200	15,186	20,026	19,845	32,574
検査	入院	52,129	52,510	55,770	53,374	45,090
	外来	22,950	45,657	48,773	41,125	41,124
	合計	75,079	98,167	104,543	94,499	86,214
特別食（単位：食）		16,234	21,640	16,997	19,681	15,561
訪問看護		1,927	2,172	2,151	2,187	2,125
往診		0	0	0	0	0
作業療法		5,644	4,878	4,412	4,996	4,387
薬剤管理指導		718	1	0	0	243
デイケア		7,800	8,709	9,045	8,218	7,608

４　病床１００床当たり職員数

年度 / 職種等	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
病床数	146	146	146	146	105
医師	3.4	3.4	3.4	3.4	4.8
看護部門	43.8	45.9	43.8	40.4	56.2
薬剤部門	1.9	1.2	1.2	1.2	2.6
栄養部門	0.7	0.7	0.7	0.7	1.0
画像診断部門	1.4	1.4	1.4	1.4	1.9
臨床検査部門	0.7	0.7	1.4	1.4	1.9
作業療法部門	1.2	1.2	1.2	0.7	1.0
デイケア部門	2.7	3.4	3.4	2.7	3.8
認知症疾患医療センター部門	－	－	1.4	2.1	2.9
指導部門	－	－	－	－	－
その他	－	－	－	－	－
事務部門	6.2	6.2	6.2	5.5	7.6
合計	62.0	64.1	64.1	59.5	83.7

１　職員数には、委嘱医、非常勤職員、臨時職員を含み、委嘱医、非常勤職員は常勤換算し算出

２　看護部門には、看護助手を含む

３　職員数＝年度末職員数／年度末病床数×１００

４　平成２８年６月２０日から病床数１０５床に変更

5　医薬材料使用効率調

（単位：円、％）

区分＼年度		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
投薬	費用 a	39,307,830	35,360,078	33,209,451	32,967,106	25,628,498
	収益 b	47,183,519	44,847,777	42,447,149	42,139,331	32,736,513
	率 b/a	120.0	126.8	127.8	127.8	127.7
注射	費用 a	30,604,337	29,852,706	31,621,292	43,051,789	47,243,571
	収益 b	35,477,727	34,034,498	36,625,999	49,398,931	54,636,497
	率 b/a	115.9	114.0	115.8	114.7	115.6
薬品計	費用 a	69,912,167	65,212,784	64,830,743	76,018,895	72,872,069
	収益 b	82,661,246	78,882,275	79,073,148	91,538,262	87,373,010
	率 b/a	118.2	121.0	122.0	120.4	119.9
その他医薬材料	費用 a	11,225,210	13,305,532	13,175,840	12,256,154	12,182,034
	収益 b	203,130,902	215,949,545	219,094,755	210,733,725	195,858,307
	率 b/a	1,809.6	1,623.0	1,662.9	1,719.4	1,607.8
合計	費用 a	81,137,377	78,518,316	78,006,583	88,275,049	85,054,103
	収益 b	285,792,148	294,831,820	298,167,903	302,271,987	283,231,317
	率 b/a	352.2	375.5	382.2	342.4	333.0

※　「その他医薬材料」とは、検査、Ｘ線、処置、手術、精神科専門療法に係るものの合計である。

6　給食収益に対する材料費調

（単位：円、％）

区分＼年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
（うち用具費分）	(159,936)	(153,593)	(445,875)	(203,835)	(62,949)
費用　A	30,899,207	31,448,254	31,269,915	29,149,069	24,042,206
収益　B	76,062,991	74,476,000	70,167,562	65,556,136	53,391,266
率　A/B	40.6	42.2	44.6	44.5	45.0
（うち用具費分）	(4)	(4)	(12)	(6)	(2)
1人1日当たり費用	764	811	844	850	856

第５　地域支援活動

１　診療支援

ＪＡ北海道厚生連網走厚生病院には精神科の専門医が配置されていないが、入院患者の中には主疾病とは別に精神的な治療を必要とする患者がおり、臨時的な専門医による診療が必要な状況から当院が支援を行っている。

網走市内で精神科専門医を要しているのは当院のみであり、公的医療機関として地域の医療機関への補完的応援を行い地域の医療確保に努める必要があることから、当該病院に対し診療支援を行っている。

２　地域の保健、予防活動

地域の保健、予防活動の普及、促進等のため、関係機関への協力、支援を行っている。

機　　関　　名	内　　容
北海道森林管理局	心の健康づくり相談員
北海道警察本部	鉄砲刀剣類所持等取締法に基づく指定医
北海道保健福祉部	精神科病院実地審査委員
北海道教育委員会	心の健康相談員
北海道オホーツク総合振興局	精神保健医
	生活保護法による委嘱医
	精神保健相談事業
	思春期相談事業
北海道網走高等看護学院	講師
北海道網走養護学校	学校医
道立心身障害者総合相談所	一般巡回相談相談医
網走市	福祉事務所嘱託医（生活保護・特別障害者手当・子供発達支援センター業務）
	老人ホーム入所判定会議委員
	教育支援委員会委員
網走市外３町障害支援区分認定審査会	委員
網走市外３町介護認定審査会	委員
美幌地域３町障害程度区分認定等審査会	委員
網走刑務所	非常勤医師
ＪＡ北海道厚生連網走厚生病院	委嘱医師
網走地方精神保健協会	会長ほか役員、事務局員

3　講　演

地方公共団体や各種団体からの依頼を受け、地域の保健活動の普及、促進等のため、講演を行っている。

年 月 日	講演者	演　　題	主　　催
H28. 8. 3	中村一朗	認知症講演会	小清水町
H28.11.28	草野 章子	認知症ケア研修	北見病院

4　自助グループへの支援

Ａ・Ａ（アルコールの自助グループ）活動の支援

アルコール依存症の治療は、薬物や精神療法には限界があり、仲間同士の体験や知恵から、断酒を自らが選び取る自助グループの存在は欠くことができないものであり、病院の近くに参加できるグループの存在は大きい。

現在、市内では、網走グループが、毎週月曜日の19時から20時まで、当院相談室を使用して、ミーティング活動を行っている。

グループへの支援は、外来看護師が窓口を担当し、ミーティング開催に向けて、入院、通院中の関係患者に通知し、参加を促している。

また、保健所主催のＡＡ家族学習会への支援を行っている。

5　グループホームと地域活動支援センターの支援

市内にある共同住居（グループホーム）と地域共同作業所に対し、運営委員会やミーティングへの参加、訪問看護、相談及び指導員との連絡・調整等の支援を行っている。

6　網走保健所、市町村等との連携

(1)　サポート会議

精神障がい者が円滑な地域生活ができるよう、関係者が情報交換を行い、連携の強化を図るため、月1回、地域の保健福祉担当者とケース検討を行っている。

年度別のケース検討件数は、次表のとおりである。

年度別ケース検討事例数　　（単位：件）

月 / 年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
2012年度	19	15	16	13	17	14	16	14	14	13	27	21	199
2013年度	14	16	18	18	19	18	16	20	16	12	21	22	210
2014年度	15	17	12	18	20	14	23	15	15	6	12	17	184
2015年度	17	11	20	18	22	16	16	14	15	10	14	7	180
2016年度	12	12	13	14	13	10	10	12	10	8	11	18	144

(2)　ヘルパー会議

市役所保健福祉課・保健センター職員、ホームヘルパーと精神障がい者や認知症老人の在宅支援などのケース検討等を隔月に1回、計151件実施している。
また、必要に応じ訪問看護ステーションなどと連携している。

(3)　心の健康相談

地域、職場などの各ライフステージにわたる精神的不健康、不適応状態にある者の相談援助を行い、健康状態の回復を目指したり、精神疾患の早期発見、早期治療、更には、精神障がいを有する者やその家族が抱えている問題に相談援助し、家族の問題の軽減を図る目的で網走保健所が実施している事業であり、月１回、当院医師が協力している。

(4)　移動精神保健相談

町内に精神科の医療機関がない住民に対し、身近な地域で容易に相談が受けられる機会を提供することを目的に保健所が実施している事業であり、当院医師が協力している。

(5)　思春期保健相談事業

中高校生等思春期における子どもとその親を対象に医師、保健師により思春期に関する相談を目的に保健所が実施している事業であり、当院医師が協力している。

(6)　通院患者の主治医相談

保健所保健師が、訪問指導などのために主治医との相談を求めてきた場合、随時、応じている。

対応困難なケースについては、事例検討会などを開催し、関係者を含めた主治医との連携を図っている。

その他退院予定者が対象となる場合もある。

(7)　福祉サービスとの連携

生活保護受給者等について､市及び総合振興局の生活保護担当者による主治医相談が、随時、行われている。

当院の場合、疾病による生活障害のため、生活保護を受給している障がい者が比較的多く、病状が悪化したことにより、緊急に相談を受けることもある。

(8)　介護保険制度への協力

市町村からの依頼により、主治医意見書を記載している。

介護保険主治医意見書取扱件数

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
件　数	273	256	292	297	306

(9)　障害者自立支援制度への協力

市町村からの依頼により、主治医意見書を記載している。

障害者自立支援主治医意見書取扱件数

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
件　数	86	69	102	92	76

第６　研修、教育･実習

１　院内研修開催状況

開催年月日	研修会等の名称・内容	参加数	備考(講師等)
2016. 4. 1	新規採用職員研修	5名	事務長ほか
2016. 6. 8	医療安全研修（事故集計結果等）	17名	医療安全管理委員会
2016. 6.29	交通安全研修 情報セキュリテイ研修 文書管理研修	82名	庶務課長
2016. 6. 8	防災教育	18名	防火管理者（庶務課長）
2016.10. 5	救急研修（一次救命処置）	25名	厚生病院谷口医師ほか
2016.11.11	防災教育	11名	防火管理者（庶務課長）
2016.11.15	感染対策研修会	13名	院内感染対策チーム
2016.11.17	拘束に関する研修	22名	行動制限最小化委員会
2016.12. 7	医療安全研修（ＣＶＰＰＰ）	18名	医療安全管理委員会
2016.12. 9	特定事業主行動計画に関する研修	82名	庶務課長
2017. 2.16	行動制限研修会	18名	行動制限最小化委員会
2017. 2.21	接遇研修	25名	患者サービス向上委員会
2017. 2.24	栄養管理研修	12名	栄養サポートチーム

２　院外研修会等参加状況

年　月　日	研修会等の名称	場　所	参　加　者
2016. 7.14～ 7.15	看護倫理研修	旭川市	伊東文枝
8. 9～ 8.10	成人の発達障害の理解と対応研修	札幌市	折笠郁子
9. 6～ 9. 8	認知症ケアー研修	旭川市	竹内さつき
9. 9～ 9.10	精神科における医療安全研修	札幌市	厚海幸恵
10. 3～10. 8	ＣＶＰＰＰ院内トレーナー養成研修	音更町	國定美由樹外１名
10. 3～10. 5	ベテランナースの力を活かす研修	札幌市	山崎優子
10.17～10.18	摂食・嚥下ケアの基本を学ぶ研修	札幌市	竹田枝美子
10.15～10.16	発達障害研修会	札幌市	渡辺マミ
10.21～10.23	道立病院栄養士連絡会議	札幌市	石川千寿子
10.21～10.24	医療安全管理者養成研修	札幌市	岩永智美
10.22～10.23	北海道認知症疾患医療センター懇話会	札幌市	平森芳浩
10.26～10.28	組織で行う感染症管理研修	釧路市	目黒嘉代子
10.26～10.28	道立病院看護職員リーダーシップ研修	札幌市	山本妙子外１名
10.31～11. 1	医療安全管理者フォローアップ研修	札幌市	濱名香代子
11. 9～11.12	精神障害者地域支援事業エリア研修	帯広市	徳差さなえ
11.10～11.11	医療安全に関するワークショップ	札幌市	菅原弘光
11.14～11.17	魅力ある施設内教育の企画研修	札幌市	草野章子外１名
11.23～11.25	道立病院看護師長研修	札幌市	濱名嘉代子外１名
11.30～12. 3	日本認知症学会学術集会	東京都	中村一朗
2017 1.20～ 1.22	刑事精神鑑定ワークショップ	東京都	髙信径介
2. 9～ 2.10	道東地域医療観察制度地域連絡協議会	釧路市	徳差さなえ
3. 2～ 3. 4	看護師のクリニカルラダー研修	札幌市	菅原弘光外１名
3. 5～ 3. 7	認知症ケア加算２施設基準対応研修	札幌市	垣本恵美子
3.18～ 3.19	北海道認知症疾患医療センター懇話会	札幌市	平森芳浩

3　教育、実習の受入

(1)　教　育

学　　校　　名	講　　義　　内　　容	職　　種	氏　　名
道立網走高等看護学院	医療論	医　　師	佐々木　信　一
	精神看護学援助論Ⅰ	医　　師	中　村　一　朗
	精神看護学概論	看　護　師	森　本　早百合
	精神看護学援助論Ⅱ	看　護　師	草　野　章　子
		看　護　師	河　野　宏　子
	災害看護と国際協力	看　護　師	桜　井　尚　子

(2)　実　習

職　　種	学　　校　　名　　等	実　習　期　間	人員
作業療法	札幌医科大学	2016. 6.13～ 7.22	延 29
作業療法	北海道文教大学	2016. 4. 4～ 5.27	延 36
看　　護	道立網走高等看護学院	2016. 7. 4～ 7. 8 2016. 9.12～ 9.16 2016.10. 4～10.31 2016.11.28～12.16	延171
看　　護	道立紋別高等看護学院	2016. 5.16～ 5.20 2016. 5.30～ 6. 3 2016. 7.25～ 7.29 2016. 8.15～ 8.19	延116
看　　護	日本赤十字北海道看護大学	2016. 5. 9～ 5.12 2016. 5.16～ 5.19	延 16
看　　護	学校法人　西野学園	2016.11. 7～11.22 2016.11. 9～11.25	延 29

第７　医療事故等の状況

１　医療事故等の公表基準

道では、近年の公立病院における医療事故に関する情報公開が急速に進展している状況を踏まえ、道立病院においても、病院運営の透明性を高め、さらに医療の安全管理体制の向上を図ることが必要との判断から、医療事故の公表に関する取扱いを定め、2006（平成18 ）年度発生の医療事故から適用することとした。

「道立病院における医療事故等の公表基準」の概要は、次のとおりである。

道立病院における医療事故等公表基準(概要)

１　目的

道立病院で発生した医療事故等を公表することにより、病院運営の透明性を高め、道民の医療に対する信頼を深めるとともに、医療における安全管理体制の向上を図ることを目的として、医療事故等の公表を行う。

２　医療事故等のレベル基準

レベル		障害の継続性	障害の程度	内容
インシデント	レベル０	－	な　し	事故が起こりそうな環境に前もって気づいた事例、実施される前に気づいた事例
	レベル１	－	な　し	患者への実害がなかった事例 何らかの影響を与えた可能性はあったが、処置や治療を要しなかった事例
医療事故	レベル2a	一過性	軽　度	確認のための検査の必要が生じた事例 簡単な処置や治療を要した事例(湿布、鎮痛剤の投与など)
	レベル2b	一過性	中等度	処置や治療を要した事例（皮膚の縫合など）
	レベル３	一過性	高　度	濃厚な処置や治療を要した事例(人工呼吸器の装着、入院日数の延長、外来患者の入院など)
	レベル４	永続的	－	永続的な障害や後遺症が残った事例
	レベル５	死　亡	－	死亡(原疾患の自然経過によるものを除く)

３　公表基準

各レベルに対応するレベル基準は、次のとおりである。

<table>
<tr><th>区　分</th><th>レベル</th><th>過誤あり</th><th>過誤なし</th></tr>
<tr><td rowspan="2">インシデント</td><td>レベル０</td><td colspan="2" rowspan="2">一括公表（個々の事例ごとに公表しない）　※１</td></tr>
<tr><td>レベル１</td></tr>
<tr><td rowspan="5">医療事故</td><td>レベル2a</td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>レベル2b</td></tr>
<tr><td>レベル３</td><td colspan="2">概　要　公　表
(事例ごとに概要を公表する
医療機関名の公表はしない)</td></tr>
<tr><td>レベル４</td><td colspan="2" rowspan="2">原則個別公表　※２</td></tr>
<tr><td>レベル５</td></tr>
</table>

※１　過誤なしについては、一括公表とするが、社会的意義が大きいと考えられるものについては、医療安全対策の観点から概要を公表する。

※２　個別公表については、患者及び家族の同意を得たうえで公表する。
なお、自殺については、患者家族に対する配慮から個別公表は行わない。

4　公表の方法

道立病院室のホームページで、次により公表する。

公表に際しては、北海道個人情報保護条例に基づき、十分配慮して行う。

(1)　個別公表(随時)

事故の概要、原因及び今後の対策を掲載

なお、個別公表に当たっては、患者さん及びご家族に対し、事前に十分説明を行い、同意を得ることを原則とする。

(2)　概要公表及び一括公表（年２回（11月、５月））

概要公表：事故の概要、原因及び今後の対策を掲載

一括公表：件数を掲載

2　医療事故等の発生状況

2012～2016年度の医療事故等の発生件数等は、次のとおりとなっている。

（単位：件）

レベル/年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
レベル０	２２１	２４４	１７３	５６	２７
レベル１	２６０	３８６	３７６	２５１	１４８
レベル２	２０１	－	－	－	－
レベル2a	－	２９	７４	３９	１７
レベル2b	－	5	4	１０	1
レベル３	1	1	5	1	1
レベル４	－	0	0	0	0
レベル4a	0	－	－	－	－
レベル4b	1	－	－	－	－
レベル５	2	2	1	1	0

※レベル基準の改正(2013年4月1日)

【改正前】

区分	レベル	障害の継続性	障害の程　度	内　　容
インシデント	レベル０	－	－	事故が起こりそうな環境に前もって気づいた事例、実施される前に気づいた事例
	レベル１	なし	－	患者への実害がなかった事例
医療事故	レベル２	一過性	軽　度	処置や治療を要しなかった事例、観察の強化や確認のための検査の必要性が生じた事例、簡単な処置や治療を要した事例（皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など）
	レベル３	一過性	高　度	濃厚な処置や治療を要した事例（人工呼吸器の装着、入院日数の延長、外来患者の入院など）
	レベル4a	永続的	軽　度	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない
	レベル4b	永続的	高　度	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う
	レベル５	死　亡	－	死亡（原疾患の自然経過によるものを除く）

【改正後】

レベル	障害の継続性	障害の程　度	内　　容	区分
レベル０	－	－	事故が起こりそうな環境に前もって気づいた事例、実施される前に気づいた事例	インシデント
レベル１	なし	－	患者への実害がなかった事例 何らかの影響を与えた可能性はあったが、処置や治療を要しなかった事例	
レベル2a	一過性	軽　度	確認のための検査の必要性が生じた事例 簡単な処置や治療を要した事例（湿布、鎮痛剤の投与など）	医療事故
レベル2b	一過性	中等度	処置や治療を要した事例（皮膚の縫合など）	
レベル３	一過性	高　度	濃厚な処置や治療を要した事例（人工呼吸器の装着、入院日数の延長、外来患者の入院など）	
レベル４	永続的	－	永続的な障害や後遺症が残った事例	
レベル５	死　亡	－	死亡（原疾患の自然経過によるものを除く）	

第８　ご意見の概要

分　　類	主　　な　　内　　容	対 応 内 容 な ど
苦　　情 （１２件）	・職員への不満	・関係部署にご意見内容を伝えた。
要　　望 （１９件）	・駐車場に関すること ・待合室について ・患者用の診察番号札について ・風呂の温度について ・風呂場のカーテンの設置について ・食事の要望について	・関係部署から口頭で説明を行った。 ・回答文書を掲示した。 ・関係部署から口頭で説明を行った。 ・関係部署にご意見内容を伝えた。
その他 （５６件）	・職員への感謝 ・職員への不満 ・清掃、食事に関すること ・病棟での出来事 ・自己又は家族に関すること ・落書き ・判読不能のもの　　など	
合計８７件		

第９　資料(網走の精神保健・医療)

１　オホーツク総合振興局管内の人口と面積

人口：289,331人（うち網走市36,912人）（住民基本台帳29.1.1）

面積：10,691k㎡(国土地理院28.10.1)

２　精神科医療機関の状況（精神科を標ぼうしているオホーツク総合振興局管内の病院・診療所）

	名　　称	所在地	許可病床数					医療機能		
			総数	一般	療養	精神	感染	措置	応急	精神科デイケア等
病院	美幌療育病院	美幌町	150	60	30	60				
	北見赤十字病院	北見市	532	490		40	2	○		○
	(医)玉越病院	北見市	110			110				○
	小林病院	北見市	300	256	44					
	(医)端野病院	北見市	140			140				○
	(社医)道東脳神経外科病院	北見市	60	60						
	北海道立向陽ヶ丘病院	網走市	105			105		○	○	○
	(社医)網走脳神経外科、リハビリテーション病院	網走市	64	64						
	遠軽厚生病院	遠軽町	337	285	50		2			
	(医)遠軽学田病院	遠軽町	135			135				
	広域紋別病院	紋別市	150	148			2			
診療所	清里クリニック	清里町	19	19						
	(医)あいのない診療所	北見市	－							
	あしの医院	北見市	－							
	おんねゆ診療所	北見市	－							
	(社医)桂ヶ丘クリニック	網走市	－							

※1　道医務薬務課ホームページ「医療機関の名簿について」より（平成29年10月1日現在）

３　精神保健福祉社会資源

(1)　精神保健協会

名　　称	所　　在　　地	電　　話
網走地方精神保健協会	〒093-8585 網走市北７条西３丁目　網走保健所内	0152-41-0698

(2)　地域活動支援センター（地域共同作業所）

地域活動支援センターふれ愛	〒093-0035 網走市駒場南１丁目４番１号 網走市ふれあい活動センター内	0152-45-4688
地域活動支援センターニポグリラ	〒093-0035 網走市駒場南１丁目４番１号 網走市ふれあい活動センター内	0152-44-5992
地域活動支援センター海の貝	〒093-0016 網走市南６条西２丁目 網走市民会館内	0152-61-4355
地域活動支援センター梅トピア	〒093-0016 網走市呼人７２２－１	0152-48-3037
地域活動支援センターＮＰＯ法人ひどり窓共同作業所	〒099-4116 斜里町文光町２６番地９	0152-26-8668

(3)　精神障がい者地域生活支援センター（北網圏域）

サポートネット北見	〒090-0084 北見市北９条東１丁目１４番地	0157-31-3399

(4)　計画相談支援事業所

特定相談支援事業者 きずな	〒093-0045 網走市大曲２５番地１	0152-45-0050
相談支援センター 「りらいふ」	〒093-0014 網走市南４条西２丁目１ 本間ビル	0152-44-7681
特定非営利活動法人 オホーツクスポーツクラブ	〒093-0042 網走市潮見１８５－１９	0152-44-4880
網走市こども発達支援 センター	〒093-0061 網走市北１１条東１丁目１０－１	0152-44-1884
相談支援事業所 ちあふる	〒099-3213 大空町東藻琴３４０番地１	0152-67-7152
相談支援事業所 ゆい	〒099-4117 斜里町青葉町４１	0152-23-6556
計画相談支援はな斜里	〒099-4141 斜里町豊倉５０	0152-26-7131

(5)　共同生活援助事業所（グループホーム）

共同生活住居みずなら	〒099-4116 斜里町文光町26-12	0152-23-6556
はまなす寮	〒093-0013 網走市南３条西４丁目１４－９	0152-44-4748
アスター	〒099-2421 網走市字呼人３９３－２	0152-48-3553
サルビア	〒093-0003 網走市南３条東２丁目	0152-44-7328
ハッピー荘	〒099-2421 網走市字呼人７２１－１	0152-48-3037
オリーブ	〒093-0042 網走市潮見５丁目１２５－６７	0152-43-8711
アザレア１	〒099-2421 網走市字呼人７２１－２	0152-48-2555
アザレア２	〒099-2421 網走市字呼人７２１－２	0152-48-3553
グループホーム海の貝	〒093-0083 網走市海岸町５の１０	0152-45-0811
グループホームひまわり	〒093-0043 網走市錦町120-20	0152-44-4875
ふれ愛ホーム	〒093-0084 網走市向陽ヶ丘２丁目１４－１	0152-43-5466
夢ふうせん	〒093-0086 網走市二ツ岩１－１	0152-67-4009

(6)　精神保健福祉ボランティアの会

はとの会	〒099-4112 斜里町港町５－１	
コスモスくらぶ	〒099-4405 清里町羽衣町35番地 清里町社協内	0152-22-4840

(7)　ボランティアセンター

網走市ボランティア センター	〒093-0012 網走市南２条西３丁目 網走市市民活動センター内	0152-61-4822

※ 網走市以外の各町のボランティアセンターは各町社会福祉協議会に設置

(8)　社会福祉協議会

網走市社会福祉協議会	〒093-0061 網走市北11条東１丁目10番地	0152-43-2472
斜里町社会福祉協議会	〒099-4116 斜里町文光町52番地17	0152-23-4704
清里町社会福祉協議会	〒099-4405 清里町羽衣町35番地	0152-22-4840
小清水町社会福祉協議会	〒099-3612 小清水町字共和13番地３	0152-62-3988
大空町社会福祉協議会	〒099-2300 大空町女満別西４条４丁目１番６号	0152-75-6021

(9)　家族会

ニポグリラ家族会	〒093-0035 網走市駒場南1-4-1 ふれあい活動センター内	0152-44-5992
斜里あおぞら親の会	〒099-4117 斜里町青葉町40-2 総合保健福祉センターぱると21内	0152-22-2500

(10)　回復者クラブ

サークルエアポート	〒099-2323 大空町女満別西3条4丁目 大空町福祉課内	0152-74-2111
あおぞらの会	〒099-4113 斜里町本町6番地12　あおぞらの家	0152-23-6291
キララサークル	〒093-0073 網走市北３条西４丁目 市保健センター内	0152-43-8450

(11)　福祉の店

福祉の店　さんぽ	〒093-0202 網走市南４条西２丁目 ジオビル１F	0152-44-6128

(12)　アルコール・薬物関連自助グループ等

北見断酒会	〒090-0053 北見市桂町３丁目１６５－１６ 森本様方	

(13)　高次脳機能障がい者を支援する会

「つながり」高次脳機能障がい者を支援する会	〒090-0062 北見市美山町６８－９ 道東脳神経外科病院医療生活相談室内	0157-69-0300

(14)　社会復帰学級

パパスクラブ	〒099-4405 清里町羽衣町35番地 清里町保健福祉課	0152-25-3850
小清水町社会復帰学級	〒099-3698 小清水町小清水２１７ 小清水町役場内	0152-62-2311

２０１６年度

北海道立向陽ヶ丘病院年報

２０１８(平成30)年２月発行

発　行　　北海道立向陽ヶ丘病院
編　集　　向陽ヶ丘病院広報委員会年報編集部会

〒093-0084
北海道網走市向陽ヶ丘１丁目５番１号
電　話　０１５２－４３－４１３８
ＦＡＸ　０１５２－４３－４３６５